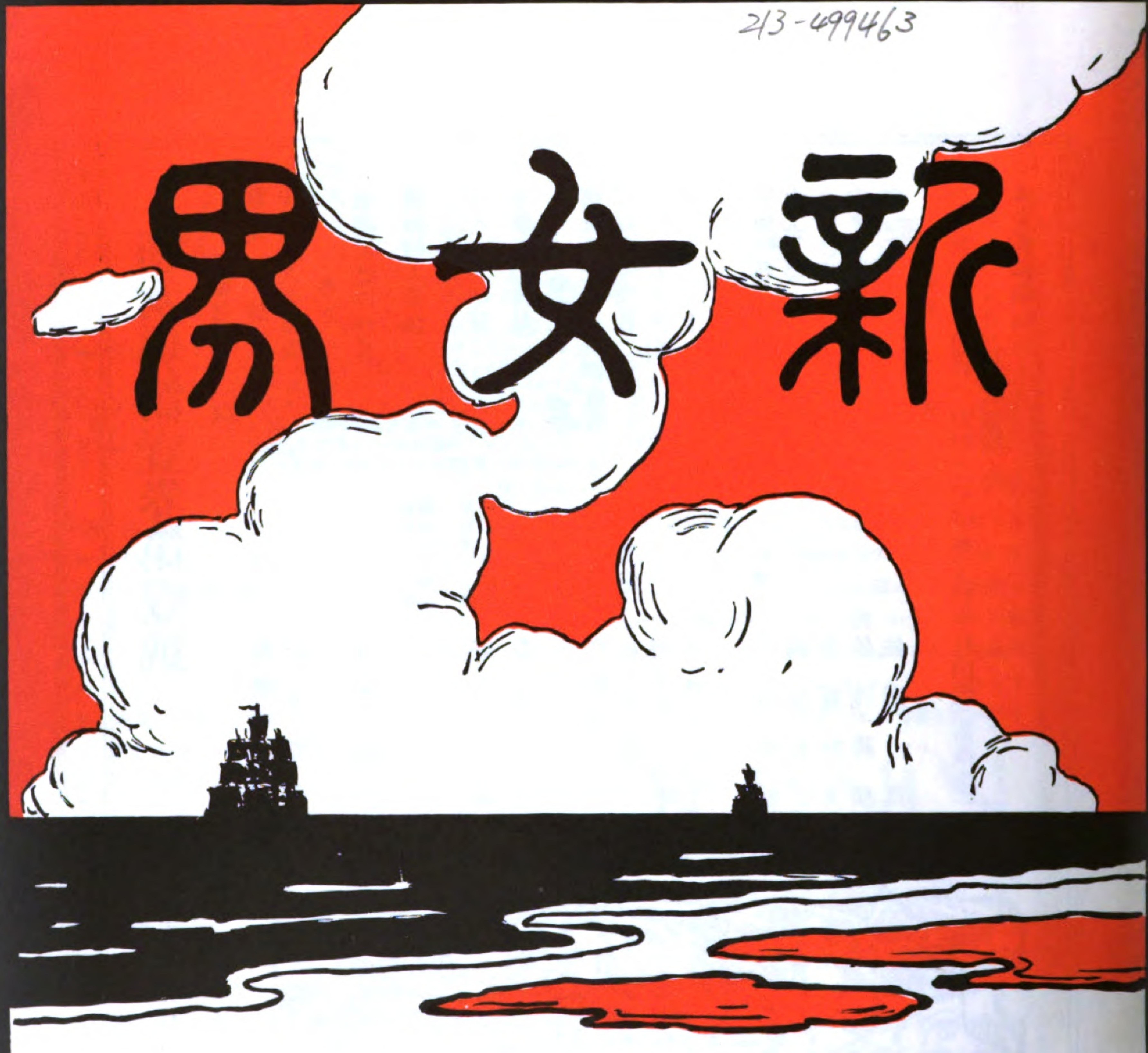
213-499463

新女界



主幹 海老名彈正

要目

現代婦人の修養 安井哲子

東西家庭の特長 海老名彈正

清國婦人雜話 法學士 吉野作造

ミノムシの話 理學士 谷津直秀

家庭における精神教育 宮川壽美子

家庭衛生談 醫學士 金子魁一

湘南の春 文學士 小山東助

主筆 安井哲子

第壹卷第壹號

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第壹卷第壹號

●目次

發刊の辭　海老名彈正
現代婦人の修養　安井哲子

●思想

東西家庭の特長　海老名彈正
清國婦人奇譚　東京法科大學助教授法學士　吉野作造
ミノムシの話　東京理科大學講師理學士　谷津直秀
女學界の瞥見　赤星仙太

●家庭

家庭に於ける精神敎育　女子高等師範敎授　宮川壽美子
家庭衞生問答　醫學士　金子魁一
なつかしき思出　海老名みや子
思うたまゝを　元良よね子

●文苑

湘南の春　文學士　小山東助
十六櫻　高濱長江
うぐひす　大塚楠男
少年の印象　佐藤澱橋
短歌　佐藤茂

●雜錄

事務所の明け暮れ、野口せい子●子供奉仕同盟（薔薇生）
▲隨感、安井哲子其他同人
▲彙報▲編輯だより

香油　大瓶　卅五錢　中瓶　廿五錢　小瓶　十七錢
白粉　大瓶　卅五錢　中瓶　二十錢　水製　廿五錢

千代田香油と白粉とは廿世紀式の新香料を配合して調製せるものなれば、夙に淑女令嬢間に愛用せられ高評盛なり

東京馬喰町
山岸三之助
電話浪花三七九三

博士ファラー原著　文學士吉川正雄譯　▲新刊　▲定價金五拾錢　郵税六錢

淑女の美德

十世紀の婦人が必要適切なる要項總て二十九を言文一致の最も解り易い文章にて叙述し又た何人にも實行さるゝ如く說明して面白し（讀賣新聞評）

本書目錄

[illegible]

THE THREE HOMES

小說 三家庭

博士ファラー原著
原田助氏序文
ギユリツキ氏序文
海老澤亮譯

▲忽ち再版▼　定價金壹圓　郵税八錢

千八百八十年頃英國の文壇に盛る匿名者によりてスリーホームなる一小說現はれしが、其の構想の雄渾と文辭の優麗とは、英國の讀書界として頗る好評を博し、讀者總ては著者の何人なるかを知らんと欲すること甚だしかりき。然も此の匿名作家は誰なりしとするぞ、當時英國に於ける第一流の宗教家として能文の聞え高かりしファラー博士こそ實に其の人なりしなれ。此書今海老澤氏により、人と土地とを日本に移して譯出せられたり。內容は左の如く、三つの家庭、即ち放縱なる貴族の家庭と、冷酷なる家長を有する家庭と、今一つは一家團欒誠に溫和なる家庭とに於ける、三人の青年を主人公として、其の交際關係を寫せしものなり。讀者一度之を繙かば、如何に家庭が其の子女に及ぼす影響の大なるか、蓋し思ひ半ばに過ぐるものあらん。現に一家團欒の甘味を缺く家庭の多きを見る今日、廣く讀者の愛讀を希望するものなり。……（基督世界）

フランダースの犬

日高柿軒譯　▲再々版　▲定價廿五錢　▲郵税四錢

本書は數月前伊太利に客死し、僅かに其の一諸著と數頭の犬猫とによりて其生の餘を送られたる英國の閨秀作家ウイダ（本名ルイズ・デ・ラ・ラメイ）女史が一代の傑作にして、現下歐米の各國語譯書は、皆な擧げてこれを賞し、世界名著百卷の一に數ふべきを云ふものあり。實に世の貧しき者を世に對して虐げられたる作者の同情深き筆は深々として紙上に溢れ、殊に老犬が主人公を慕ひ、自ら其業を捨て一死途に就くのあたりは、誠に五六の少年少女をして嗚咽せしめたるに、よく一人の泣かざるものあることなし。譯文また流麗簡潔。加ふるに裝幀の精なる美はしきと共に、多大の興味あるべきを信じて疑はず。是れひとり少年少女の健全なる讀物として推薦すべきのみならず、又讀書用として甚だ適なる可し。……（萬朝報）

宮地竹峯譯　▲新刊　▲定價四拾錢　郵税四錢

小說 少女の操

本書は佛國の文豪ベルナルダン、サン、ピエールの傑作「ポール、エ、ヴァージニア」を譯述せしものなり。原著は甞て佛國の讀書界を風靡したる傑作、初戀を描きては可憐、自然を寫しては清新、而して戀人手を分つの場に至つては悽愴哀婉、讀むもの皆な泣かざるはなし。ナポレオン曾て誦者が作中に謂ひて曰く「ピエール君よ、願はくは余の爲めに、今一度新らしき「ポール、エ、ヴァージニア」なるものし給へ」と。印度の小舍は何時見ても面白きものなれば、之れ以て原著の價値を知るべし。

東京巢鴨郵便局上駒込

版元　內外出版協會

電話下谷四百三十八番
振替貯金口座東京三五五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此廣告切拔キ御持參又ハ郵送ノ方ヘハ風琴特別一割五分引

風琴洋琴

ヴアイオリン各種

音樂書類

神田區中猿樂町二二
小石川線電車神保町停留場前

旭光社 長谷川哲治

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

祝新女界發刊

定價表及目録等は御一報次第御送附可仕候

風琴

製造
販賣

東京市下谷區中三崎町五十七番地

金聲社風琴製造所

（振替貯金一一八八五番）

木下尚江著「小說」

墓場

再版

價卅五錢　送料六錢

桂山海軍大將題字

芳賀文學博士序

報知新聞記者　西村文則著

再版

橋本左内

大形挿畫入

價六拾五錢

送料八錢

幕末の外交切迫攘夷論旺盛たる時一個の新青年あり眼紙宇宙を呑し開國進取の大評論を抱き乾坤一新の經綸に富る事成らずして斬られたるは眞に時勢の罪也讀で本書を我が新時代の青年の前に奨む

東鄕乃木兩大將讚辭

報知新聞連載熊田葦城著

日本史蹟

本書に對する批評

東京朝日新聞評……上下二千五百有餘歲天孫の降臨に始まりて關ケ原戰に終る史蹟全土に遍ねくして八丈島に及ぶ文章簡率にして而も人物を活躍せしむ乾燥なる歷史教科書に比して　に趣味ある歷史讀本たり同時に又少年作文の教典としても可なるを思ふ

實業之日本評……古來歷史に關する著書尠からずと雖も史蹟を傳ふるものは未だ之れなし著者其年を經て滅し變化するもの多きを慨し普く全國の史蹟を網羅して之を天下後世に傳へんとしたるもの歷史と地理とは相俟つて相變るべからず此書遺蹟に依りて歷史を求め歷史によりて遺蹟を求む遺蹟は悉く之鮮明なる寫眞版として插入し趣味ある文章を以て　歷史を叙したる處趣味横溢眞に近年稀に見る快著也用紙と云ひ表裝と云ひ心憎き程氣が利きたり

寫眞百六十餘個插入

紙數五百廿餘頁

裝釘堅美正價貳圓

特價壹圓六拾錢

送料內地拾貳錢

東京本鄕弓町一ノ二　昭文堂　振替東京七六一四番

坪內文學博士序

松本雲舟譯

四版

大文豪シエンキエキッチ傑作

小說 何處ニ往ク

QUO VADIS.

クロース

五百頁畫入

價壹圓廿錢

送料拾貳錢

十九世紀に於る世界の文壇を風靡したるものは實に本書なり結構雄大思想深邃家庭及學生の讀物として最も清らかなる大作なり

木下尚江著「小說」

乞食

五版

價卅五錢　送料六錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第壹巻
第壹號

發刊の辭

海老名彈正

我が愛する新人は呱々の聲を揚げて、こゝに十の春を重ねたり。殊の外すこやかに、又けなげに生ひ育ちて、多くの人々に可愛がらる。之を愛するものはいふ、彼れの妹はなきや。あらば之をも愛すべきものをと。我れ固より小女の誕生を願はざるにあらざりしも、力に任せざるが故に、寧ろ生れざるを幸となしたりしこともあるが、それにもかゝはらず、我が家庭の人々は熱誠を凝らして祈りたれば、天は我が家庭のさびしさを賑はさんが爲に遂に一少女を與へ給ひぬ。その名を新女界といふ、新人の妹なり。そもゝゝ新女界は何の使命を以て生れ來りたるか。世間には美しき娘、賢しき女、その數夥しく、かぞふるに遑なきなり。かく多くの姉妹等が艶を競ひ嬌を爭ひ、戀人の求めに應ぜんとて、盛んに勵み勉めなしつゝあるに、汝ち新女界は何をなさんと欲して顯はれ來りたるか。我も人も聞かんと欲する所なり。

見渡せば嘗て學界の青年をも墮落の淵に陷れたる怜むべく賤むべき人非人の魔窟は趣味の進歩するにつれ、漸くその勢力を失うに至りたれども、尚一種の技藝と趣味とを以て强健ならざる意志を惑はしつゝあることの盛なるはいふをも恥る所なり。新女界は此厭ふべき世界を矯正せんとて生れ出でたる女丈夫ならんか。是れその忽にすべからざる任務たらんは我の疑はざる所なれども、汝の最も留意すべきは尚他の廣き方面にあらんかと思はる。流れ行く世の中の趣味は更に一轉して汚れ少き世界に向ひつゝあり。竊盜と雖も今樣の紳士を装うて、良家の庭園をあらし始めたり。さらば汝ち新女界は重に此荒らされつゝある比較的善良なる女學界を救はん爲に生れたる光明なるか。

是れ固より汝が忽にすべからざる所なれども、汝の使命

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は更に積極的方面に打つて出づべきものありと思はる。

新しき醗酵は日本の女學界に混入せられたり。此醗酵は日本の女學界をかきみだす恐るべき勢力なり。苟も歐米の思想が注入せらるゝ以上到底此混亂は免るべからず、さらば歐米の思想は果して惡なりやといふに、斷じて然からず。しかも之を學び誤るときは取り返しのつかぬ憐むべき結果を生ずることなれば、深く注意に注意を拂はねばならぬ。歐米の女德も二千年の久しき養ひ來りたるものなり。是れあればこそ偉大なる歐米の國民を生み出すことを得たるなれ。日本の女德も二千有餘年養ひ得たるものなれば、其價値は高うして定むべきにあらず。此二大女德が混淆するときは、亦一をも取らず二をも取らず、多くは最も厭ふべき結果を取るに至ることあり。しかも彼れの長を取つて我が短を補ひ、東西の女德を調和して、その美德を輝やかすときは、其のかちねたる女德は日本のそれにも歐米のそれにも優りて、最も尊むべきは言を待たぬ所なり。此大使命を帶びて女學界に立つもの甚だ多からず。汝ち新女界は取りも直さず、此大使命を奉戴して生れ來りたるにはあらざるなきか。我れはしか思はざるを得ざるなり、しかく信せんと欲するなり。

汝ち新女界は一面より見れば眞の國粹を以て堅く立つ保守主義を主張するものたらざるべからず、又一面より見ればよく歐米の女德に通曉して開國進取の大主義を高調するものたらざるべからず。甲は汝を目して革新の敵と罵るべく、乙は汝を評してハイカラとつまはじくべし。世間多くは單純の頭腦を有して、複雜の調和を認むるの眼なし。故に是に馳せ、彼れに偏り、或は茫々然としてその中央に立ち右にも左にも進むこと能はざるものあり。汝が世間に誤解せられんこと豫じめ期すべし、しかも汝の使命は之を盡さゞるべからず。保守主義に對しても、改革主義に對しても、又は折衷主義に對しても汝は飽くまで同情と反駁とを辭すべからず。汝は滔々たる天下の女流に反抗して、更に一頭地を拔き、天來の寵靈に頼り、おとなしく、又いさましく、朝日淸らかに照らす極東の天地に新女界を開拓せんは汝天與の光榮たらずんばあらず。我は汝がこの光榮を見て祝せざらんと欲するを得んや。汝が兄弟なる新人を祝するもの、汝の誕生を祝せんは疑ふべからず。幸に天與の使命に對して忠實ならんか、汝を祝福するもの豈たゞ汝が兄弟の友人のみならんや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現代婦人の修養

安井哲子

孔雀の眞似をした烏の話は、實に現代我國婦人の状體を表はして居ると思ひます。烏が美くしい羽を單に外部に附けて、眞の孔雀となり得る如くに考へた愚は、幼稚園の兒童にでも直に解かりますが、併今日教育ある婦人が之れに類似の行爲をなして少しも耻ぢないのは何故でありませうか。

蓋現時の教育は外形的に傾いて、精神の少ない様に思はれる。教育者自身も如何に女子を教育せんとするかに就いて餘り明かな理想を有たず、父母も亦其女の教育に就いて確な主義を抱かぬ者が多いであるまいか。且又廣い意味に於ての社會教育家たる新聞雜誌も、青年男女を親切に誘導するよりも、寧大人氣なく彼等の非行を罵詈する者が多い。殊に怪しむべきは教師たり父母たる直接の教育責任者が、是等新聞雜誌の筆誅に驚いて、淡淡に其愛すべき學生又は子女の處分を爲す事であります。近頃或新聞紙上に出でつゝある墮落學生欄の如き、決して無邪氣な青年の讀み得べき文字ではありません。私共は實に前途有望な青年が此の様に非行を暴露されて、暗黒悲慘な境遇に陷つて居るのを悲しむのでありますが、また彼等を教導すべき責任を有する父母、學校、社會がかゝる青年を作り出だした己が罪を悔いないで、未成熟者たる彼等を無責任に罰するの無慈悲と冷淡とには驚かないで居られません。

今日の世は實に無責任の世の中であります。人の名譽信用を損ふ事を何とも考へぬ信實なき世の中であります。忠臣藏を讀んで深く昔を忍ばしむる者あるのは、蓋君臣、夫婦、朋友間の誠實なる情が今日の人情に比して、餘り甚しい差があるからでせう。併私共が今日覺悟せねばならぬ事は、かゝる無責任、冷淡なる社會に對して不平を述ぶる事ではなく、かゝる世の中に處して如何に吾等を修養すべきかを研究することであります。

修養は内より行はるべき者で、外から附け得る者ではありません。それ故に吾々は如何に修養せんかといふ問題を研究する前に、先吾々は何の爲めに此世に生活して居るかといふ事を明にせねばなりませぬ。吾々は此世に於て學び得べき最多くを學び、爲り得べき最良の者となり、且又爲すべき最多くの事を爲さねばならぬのであります。學び得べき最多くを學ぶのは、決して學者とならんが爲めではありません。爲り得べき最良の者となるのは、決して世に名譽を博せんがためではなく、人間らしくあらんがためであります。又爲すべき最多くをなさんとするのは、敏腕家として知られんが爲めではなく、他人の爲、自分の爲めに幸福なる社會を造つて生活の目的を達せんがためであります。

然るに私共が現在陷つて居る弊害は、此根本的生活の目的を離れて、外面上に現はるゝ幸福を得んとして居る事であります。即富を得、位置を得、名譽を得て慾望を滿足しやうとするのであります。然るに誤つた意味の大望は、決して人に滿足を與ふる者ではありません。彼世界を一統せんと企て

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た昔の英雄でも、終に止まる所を知らす、其極は悲慘なる生涯に終りました。富者の快樂を得んと企てつゝある人々の心中には、人知れぬ苦痛があり、高位を得て人々の形式的尊敬を受けて居る人々も、果して眞の滿足を得て居るでありませうか疑ひであります。眞に感ずる滿足は決してかく外部より得る者でなくて、內心に感ずる者でなくてはならぬと思ひます。

故に眞の平和と幸福とに入るの道は、私共が此世に生活する目的を明にして、之れに向つて眞直に進むのであります。己を僞善者として他人の尊敬を受けんとし、己の價値を過大にして虛名を博せんと企てた人に、昔から善人ど仰がれ、偉人と尊ばれた人はありません。各自の特性と境遇とは他人に由つて盡く知らるゝ者でありませんから、多年敎訓を與へた敎師でも其生徒の人物を誤解する事は少くはありません。世間も亦人を論評するに必しも當を得て居りません。然るにかく賴まれぬ他人の毀譽褒貶を標準として、自分の行爲を支配して行くならば心中常に疑惑と不安とに堪へぬでせう。之れに反して正しと信じ、行くべしと信じたる道を眞直に歩む勇氣のある者は、假令世人の誤解を受けても內心に平和と滿足とを保つ事ができると思ひます。

曾て或君主が忠實なる臣に死刑を宣告した時、其忠臣は叫んで「臣は瞬間にて止むべき自身の苦痛よりも、君が受け給ふべき永久の苦痛に對して、寧無限の悲しみを抱かざるを得ません」と云ひました。嗚呼此二人の眞の幸福はどちらにありませうか。心正しく其義務を全うせんと勉むる人々の得る內心的幸福は、他人が決して取り去る事の出來ない者であります。之れに反して、一時の位置に依り、權威に依り、又は富に依つて得た快樂は、宛も影の樣なものですから、是等を失ふと共に消ゑ去つて了ふ者であります。

不誠實なる者の傾く方向は、公明正大なる眞理を厭ひ、他人の己に對する感情を恐るゝに至る者であります。常に己の慾望を充たさんとし、虛榮心にのみ驅られる者は、己の行くべき道を踏み外づして、己れを僞つた生活をなさんと勉める樣になります。かゝる事で眞に心の平和が得らるゝでありませうか。新聞紙攻撃の材料となる人々は即ち其適例で彼等は行くべき道を行かず、己を僞つて他人を欺き、虛榮を夢みた結果は、終に其信賴せんとした世人に棄てられて、無慈悲に攻撃さるゝに至るのであります。之を子供の譬喩として笑つて居た烏の話に比べて見る時には、實に能く似た例ではありませんか。烏は烏として烏的生活をせねばならず、孔雀は孔雀として孔雀的生活をなすべきでありませふ。否にあらぬ生活は決して心の平和と滿足とを得らるゝ道ではありません。飜然覺つて生活の眞意を解し、誠實に努力奮勵すれば、假令貧なるも喜びがあり、賤しきも樂しみがあつて、徒に貧賤を以て他人に恥づる樣な卑屈な者にならぬのであります。此の如き精神で日々の行爲を繼續すれば、自然に習ひ性となつて、其習慣は終に立派な人格を作り、幸福なる運命を生むに至る者であります。此道を離れて如何に外部的修養をなさうとしても、決して滿足な結果を得る事は出來ないと思ひます。

思想

東西家庭の特長

海老名彈正

東西の家庭と云ふと、先づ東は支那及亞細亞大陸で、西は歐羅巴大陸並に英米である。元來支那の家庭はよくは了解らないが、歐米の方は多少は了解つて居る。そこで日本の家庭は以上兩者の中間にある。日本は亞細亞に屬しては居るが、日本海を隔てゝ寧ろ歐羅巴に近いものがある。私はこれを幸福に思つてゐます。家庭の組織から云ふと日本は、支那とも歐米とも異つて居る。歐米には一家庭に二夫婦住まつて居るものすらないのに、日本の家庭では殊によると三夫婦も同居して居る。私は今此處で互の長短を云ふのではない。只こゝに大切なものは家庭の母である。日本の家庭に於ける女子の立場と云ふものは非常に高まつて居る。日本には二千年來養つた女德がある。其の女德は家を齊へてゆくのに、良人に對しては忠實なることである。良人に忠實なるには父母に從順でなくてはならぬ。これが即ち孝である。この骨の折れる間に立ち忍耐して親切に子供を育てるのである。この二千年來養ふた忠實、從順、忍耐の女德に對しては、非常なる價値を認めざるを得ない。

曾て支那人が自國の風習たる一夫多妻主義を日本の家庭に入れ樣としたが行なはれなかつた。日本の家庭制度は一夫一婦である。現代の日本婦人を動かして居るものは日本固有のものでなくて歐米の風である。何もかも悉く西洋風である。これは可い。直に洋服ともゆかないで、先づ蝦茶袴を用ひて居るが、これは楷梯である。然しながら日本固有の手近いものを忘れて、歐米風を倣つて見ても夫れでは、とても彼等に及ばない。私は便利の爲に洋服を着て居るが。當座の間に合はせものは可いものではない。洋服は未だ二十年丈しか着ないから慣れて居ない。羽織袴は三百年來着て居るから體によく馴む。國粹と云ふと直に保守的だと云ふが、日本の品物で外國人に尊重されるのは何であるかと云ふと、夫れは國粹のあるものである。況や精神上のことに於ては更に著るしい。二十年間留學して來ても迚も彼等に及ぶものではない。夫れを書籍や雜誌で見た位では到底駄目なことである。

日本の女德は二千年間養ふた處の國粹である。是を養ふ爲には自殺したものもあれば殺されたものもある。これは學校

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

や何かで出來たものではない。この日本の女德たる忠實從順忍耐を持つてゆけば歐米の人も大に尊敬する。これは日本婦人の大資本である。この大資本を棄てゝ歐米の風を倣つても到底駄目のことである。歐米の家庭とても悉く善いのでない。其の一つの弊風は、金持の娘が一つ何處かの（殊に獨逸邊りの）貴族に嫁入ろうと云ふ熱烈な虚榮心がある。そして公侯伯子男に嫁入つた結果はどうであるかと云ふと、其の多くは憫な境遇に陷つて仕舞ふ。この間の消息を知つて居る一人の友人が云ふには、金持の吾儕娘を妻にしては實に厭になる。然し金は欲しい。其れが爲に他の婦人に近づく。世の中は妙なものでさう云ふことのある家へは、軍人や何かゞ來て良人のことを惡樣に告げる。初めは夫れを信じないが段々良人を疑ふ樣になつて、遂には自分も不心得のことをする樣になる、そこで離婚の裁判を始める。それを見て辯護士などは。佳い食物を見附けたと思つて群がつて來る。そして裁判の結局は良人の勝利となつた。其の爲に怨み憤り妬み嫉むて涙の中に憫むべき生涯を送ることになる。

今一つは金が欲しいのである。近頃何處かにあつた樣に、米國などでも口を探がして金持の老人と結婚する。其の結果はどうであらうか？、これも誠に憫むべきものとなる。初めの中は老人が優待してくれるので滿足して居るが、漸次に寂しくなる。そして何を求めるか、云ふまでもなく人間が欲しくなる、若い魂が欲しくなる。よく云ふてゐました、其の夫人は日本の傭人を非常に大切にする。庭で仕事をして居ると、夫人が來て慰めてくれる。…………夫れが夫人の唯一の慰藉なのである…………處がそこを良人が見付けたので日本人はとう〳〵逐出されて仕舞つた。かう云ふ事は歐米には却々多いのである。これが次第に日本へも移つて來る。

日本でも歐米でも家庭の極く善い處は同一で別に特長と云ふものはない。一つ家庭に一夫婦住むも二夫婦住むも特長は同一である。歐米でも善い家庭では妻君は良人に忠實である。「日本の婦人は良人に仕へるのに從順である」と話せは、歐米の人も其を賞める。併し「英米でも家庭の花は婦人の從順である」と答へる。「日本の婦人は全く己を棄て子供を育てると」云へば「自分達も同樣である」と答へる。「日本では家庭が複雜だから婦人は忍耐して家を齊へると」語れば、向ふの人も異に同情を表す。この邊の事は全く同一である。故に二千年來養ふた女德を決して失つてはならぬ。多くの犧牲を拂つて得たものであるから益々其の精神を發揮せねばならぬ。

歐米婦人の一つの特長は、妻たり母たるものに智識がある。處が其の智識を得ようとして從來の女德を失ふに至つては、全く土臺が間違つて居る。歐米の婦人は只に家庭の事のみではない天下の事に關する智識を有つて居る。良人の話相手たるのみならず、友が來れば良人に代つて受け答へをする見識がある。不幸にして日本婦人はこの智識が少ない。併し其の智識を得るために從來の女德を失つてはならぬ。取り易へるのではない、加へるのである。

智識の點から見ると、日本婦人の從順とは異なるが獨立心がある。子供を育てる點に於て又は學校を撰ふ點に於て、自分の意見はかうであると主張する。これに對しては良人も大

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に尊敬を拂ふ。これ丈の獨立心と見識とがあつて、何で從順となれるかと云ふと、夫れは理性上から從順になる。この外に道はない。日本婦人は今までの女德の上に歐米の女德を加へねばならぬ。家庭の細かいことに就ては色々云ふこともある。が、只一つ英國にもあるが殊に米國にあるものがある。夫れは米國婦人が驚くほど働くことである。卑しきことを卑しきこととしないで働く。

ある時牧師の家に泊つた處が下女は居ない。誰がこの家の勝手元をするかと注意して居ると、牧師の妻と廿二三才になる娘とがやつて居るのであつた。米國では客が鳥渡外出した間に、多くの水を持つて來て敏捷に掃除して、忽ち奇麗にする。實に其の心盡しは勿躰ない樣に思ふ。（日本では下女が居れば娘は働かない）。一つは米國では人の價が非常に高いので多くの下女を使ふことは出來ないのである。これが日本婦人で渡米したものゝ苦心する處である。

ブルックリンの富豪町のある家に宿つたことがある。其の夜は家族の外に三人の客があつた。併し下女は一人の外居らぬ。萬事が便利に出來て居るとは云ふものゝ、月百五十弗位の家賃を拂つて居る富豪の妻君が一切の仕事をやつて居るのである。日本婦人もこれ丈は大にやらねばならぬ。學問も見識もある今日の婦人は、昔の婦人に優つて大に働かねばなりません。

▲新女界御發刊のよし慶賀の事に御座候。何等希望として開陳する事も無御座候。主幹主筆及御社中の技量に信頼し、女界の光明指導者たるべき好雜誌の發現を翹望罷在候。

京都同志社々長　原田助氏

清國婦人雜話

東京法科大學助教授
法學士　吉野作造

○支那では正妻のことを太々といひ、妾に當る者を姨太々といふ。併し此姨太々は、直に之を日本の妾と同じ性質のものと見ることは出來ない。日本の妾に當る者は外にある。特別の名稱はない。故に予は此純然たる妾と區別する爲めに、姨太々を副妻と譯さうと思ふ。

○少し法律臭いことを云ふ樣だが、日本などの法制では、固より妾なる者は殆んど其存在を認められて居ない。此意味の妾は、支那にもある。併し姨太々に至つては、正妻の太々と共に、法律の上に其存在を認められて居るのみならず、慣習上に於ても、餘程重大な意味を與へられて居る。但し太々と姨太々とは、法律の上で何を以て區別するかは、一定の標準がない。只慣習に任して居るのみである。

○正妻の太々は、固より正式の結婚に依て迎へる者であるが姨太々も亦、一定の儀式を行つて迎へると云ふ譯のものである。去る三十九年六月、予が天津に往つて親しく袁世凱氏の家に出入して居つた頃、此姨太々迎立の儀式なるものに出會した。予は固より實地之を目擊するの榮を得ることは出來なかつたけれど、仄かに探聞する所に依ると次のやうな譯である。

○一體袁世凱には、太々の外、姨太々が六人あつたが、其中一人死んで、五人殘つて居る。序だから云ふが、之等多數の姨

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

太々は、其袁氏の副妻となりし年代の順序に從て、各一二の番號を冠して呼ばれて居る。第一番目のは一姨太々といひ、第二番目のは二姨太々といひ、順次六姨太々までであるのである。死んだのは四姨太々であつた。然るに三十九年六月に新に七姨太々が出來たのである。

○此七姨太々は、實は十一二歳の時、上海の舞妓であつたのを二千兩とかで買つて來たのださうだ。(此時は十六歳であつた)。そして當初は、四姨太々の侍女又は妹分にして同居さして居つたのである。而して愈三十九年に至り、年齢も十六歳になつたといふので、六月某の吉辰をトし、親戚故舊の重なるものを總督衙門内に招ぎ、一席の宴を張り、且つ斯んな時には必ず有る慣はしなる芝居を催し、正妻を迎ふる場合の如くに堂々と賑やかなものでないけれども、兎に角一と通りの披露式のやうなものを行つたのである。且支那では、人の妻になれば、額際を深く剃り込む風俗があるが、此七姨太々も此朝早く袁の正妻の肝入で、剃り込みを終り、全く娘風を脱し、人の妻たるの裝束で芝居を見て居つたとの事である。

○右の様な風で、兎も角も姨太々と云ふ者は、一定の儀式を經て其家の人となる者である。此外に官吏や金持などが、藝者のやうな者を引き入るゝ事も稀では無いが、之等こそ日本などの妾に當る者で、姨太々とは大に其地位を異にするものである。

○姨太々と妾との異る所以の重なる點を擧ぐれば、姨太々は一定の儀式を以て其主人の家に入れば、殆んど全く正妻と同じ様の地位を得る者である。第一に、濫りに其家を出る事が出來ぬ。主人も亦濫りに出す事が出來ない。是れ宛かも正妻が、一旦嫁した以上は終生を其家に投ずると同じ關係である。第二に、姨太々は主人に對して節操を守る義務を生ずる。之は道徳上ばかりではない、法律上の義務である。故に若し姨太々が不義をすれば、男女とも法律上の罰を受くるのである。是亦正妻の身分に伴ふ所と同一である。第三に、姨太々は單に其主人との個人的關係たるに止らずして、其家に對しても一定の關係を生ずるのである。故に主人死後と雖も、其家に永住して養はるべく、否主人死せりとて其家を去ることが許されて居ない。其他まだ外にも種々あるが、要するに、日本の妾の字を當てはめべきものでないことは明白である併し正妻より稍輕く見られて居るから、先づ副妻と譯す方が適當と思ふのである。

○封建時代の事は知らぬけれど、昔しの藩公などの側室と云つた者が此姨太々と似てるのではあるまいかとも思はれる。

○主人死後、姨太々は其家を出ることの出來ないといふ慣習の結果、實に悲慘な事實を生じて居る。姨太々は、主人生存中は其寵愛を受けて、羽振りもいゝが、主人死後は、俄に嫉妬の燒點となりて非常なる虐待を受ける。遂に彼は之に堪へずして自殺するに至る。否、實際は、未だ虐待を受けざるも、虐待を豫想して自殺するのが普通である、支那では、之を寵妻の殉死と云つて、新聞などでも盛んに賞讃して居る。殉死は實に多い。而かも此裏面の消息に通ずれば、實に悲慘の極として痛哭に堪へぬ事柄を見るのである。

○袁世凱は、今年漸く五十歳。猛名を世界に轟かした割合に

年は非常に若い。色の黒い髪も鬚も胡麻鹽で、殊に頭髪は至つて薄い。此點だけを見ると。六十以上の人の樣に見へる。五尺あるかなしかの小柄のデブ〱小肥りに肥つた人で、寫眞にあるやうな眼の鋭い人である。併し會つて話しなどする時は、ニコ〱して餘程愛嬌に富んだ表情をする。氣持よく客を取り持つ人である。總督時代には、十五六疊敷位の穢い事務室に毎日出勤して、事務を執つて居つた。室には、中央に大机と籐椅子が五六脚あるのと、室の片隅に自分の事務用の粗末な机と粗末な椅子あるのみで、飾りは何もない自分も綿服の着古したのを着て極めて、質素である。

○袁氏の正妻には遇つた事はない。年は五十一歳で、聞く所に依れば頭の禿げた色の白い小柄の婆さんだそうだ。郷里の豪族の娘で、文字は全くないが、非常に常識に富んだ賢夫人だとの評判で、平素は綿服を着て姨太々や孫の世話をして居るとの事だ。孫とは袁氏の長子克定君の子で今は三人ある。

○袁氏の姨太々の中、一姨太々は四十幾才かの婆さんで、阿片中毒で癈人同樣になつて居る。子が無いので、三姨太々には子が多いからとて其中一人を自分の方に貰つて育てゝ居る。妾同志の間で、子供の遣り取りは面白い。二姨太々は、三十七八才で健在である。三姨太々は三十二三才で朝鮮人である。袁氏が朝鮮公使たりし時、娶つた者である。一説に韓皇陛下より賜つたとも云ふ。之は頗る賢明な人物で從て袁氏の寵も淺からずとの事である。肺病ださうだが子供は多く、二男三男以下此腹にばかり六七人居る。四姨太々は中々の美人で氣立もよく、姨太々中で一番人望あつた者だつたが、不幸にして三十八年夏死んだ。五姨太々は二十六七才の美人だが、性質が惡いとて嫌はれ者になつて居る。六姨太々は今年二十三四才位だらう。之も袁氏の氣に入りである。七姨太々は先に述べた最新の副妻である。

○之等の太々姨太々は在天津時代には、總督衙門内に同居して居つた。互に一姨太々とか、五姨太々とか、番號を冠して呼び合つて居る。皆一室宛を居室として、侍女兩三人宛に侍かれて居る。袁氏の居間は二階に在るが、自分は中央の一室を占め、其左右に最年少の副妻を住はせ、更に之を隔てゝ五姨太々三姨太々を住はせ、太々と一二の姨太々は、階下に居つた樣だ姨太々同志の交情は、餘り惡くはない。併し互に嫉妬心は中々強く、例へば袁氏などが夕方公務より歸り、三姨太々の子供を一寸抱いて見るなどの事をすれば、他の姨太々も、自分の子供を抱いて貰はねば、氣が濟まぬといふやうな譯で、袁氏も過不及なく公平に愛嬌を振り撒く爲めに中々氣骨の折れたものださうだ。又太々の此間に處する方法の如きは實に妙を極めて居るさうで、自分は綿服を着て居るに拘らず、姨太々には衣物や何かの世話まで自分の子と同樣に世話を見てやり、且つ一寸風でも引くものがあれば、すぐ飛んで往つて、看護やら慰めやらに骨折るさうだ。袁氏の聰明と太々の利口な處置とで、割合に家庭は穩だとの話である。

○袁氏が北京に往つてからは、家が狹い爲めでもあらうが、自身は三姨太々以下と同居し、太々と一二の姨太々とは、長子袁克定の方に別居さして居つた。

ミノムシの話

東京理科大學講師
理學士　谷津直秀

▲ミノムシは如何なるものなるかは、余が玆に特別に讀者諸君に紹介する必要も無き程のものである。自然を親愛する我邦に於ては既に昔からミノムシを歌ふもの多く、之を集めたらミノムシ文學とでも云ふべきものが出來やう。然し余は玆に全く生物學的に此蟲に就て述べんと思ふ。

▲先づミノムシには聲があるか。吾國の歌人は多くミノムシが秋風の吹き來る頃となればチ、〳〵又父戀ひしと泣くと考へてゐる。實際此蟲が鳴いたならば、秋の寂寞に一種の詩味を添へることであらふけれど、生憎ミノムシには何等の發音器も無く、又妙音を弄して友を樂ませ、或は悲愁い聲で秋の來るを嘆ずる必要もないのである。何故といふに聞く耳がないからだ。木の葉や皮を齧む音をマイクロフヲーンで聽とらば或はチ、〳〵とも聞ゆることもあらふけれど、通常吾々の耳では聞こえるものでない。故に多分想像に富める詩人の耳が他の蟲の鳴くをミノムシと聞き誤まつたものであらう。これは宛然ミ、ズをウタイメなどと稱へて、夏の夜ヂーヂーと溝ぎはにて鳴くやうに考へてゐるけれど、其所を掘つて見ればオケラが飛び出でることがあると同理である。

▲又此蟲に就て面白き傳説がある。シーロン島では前世に薪を盗んだ者今化して此賤しき蟲となり、常に重き荷を負ふて悲しい現世を暮して居るのだといふ俗説がある。輪廻說の行はる、人民には無理もない考だ。

▲さてミノムシは何かと云ふに、蛾の幼虫である。其虫か自分の住處として、口から絹絲を吐き、木の葉、皮又は小枝を綴り合せ袋を造へる。此袋の内面は絹の層で滑に裏うちしてある。外見簑を着たやうなのでミノムシと云ふのである。英語で籃虫(basket worm)とか、袋虫(bag worm)と云ふのも形狀が似てゐるからだらう。此袋の構造も種類によりて種々ある。小枝を縦に並べたもの、横にしたもの、螺旋狀にしたもの、木の葉を集めたもの、木の皮を綴つたもの、絹糸のみにてか、或は砂にてマイ〳〵の殼の樣したもの一々枚擧に遑ない程である。然し總ての袋を通して共有なる性質は、其住所の近傍のものに摸擬て、鳥などの眼を欺く樣してある事だ。即ち擬態(mimicry)のよき例として生物學上有名なものである。(因に記す。陸に小供居れば水中に水中子供(water babies)居ると云ふ論理には賛成出來ないが。慥にミノムシには眞理である。川石などに附いてゐる川のミノムシと云ふべきものは蛾の幼虫ではなくしてトビケラ(caddis fly)の幼虫でイサゴムシと云ふものである。

▲次に此簑を開いて内に何が居るかを見やう。中から出で來るは小さイモムシかシャクトリムシを短くしたる樣な肥りた虫である。頭、胸は黒く、堅く、腹は軟かにして灰黄色、胸部に三對の脚、腹部にも五對の脚がある。疑ひもなく蛾の幼虫である。

▲ミノムシを飼うて置くと、終に木の枝等に固定て袋の内にて蛹となる。此の蛹は袋の尖端(固定てる端と反對の所)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を破つて半分許出で、其背より蛾になつて飛び出でる。其蛾をミノガと云ふ（ミノムシの蛾を云ひ縮めてかくいふ）日本には七種ある。サイキデー（Psychidae）科に屬するもので、通常翅を擴げてる大サ六七分の黒蛾であるが、此蛾は皆雄だ。

▲雌は蛹より出ない。一生を袋の内に暮し一種の東洋的の生活をする。形は如何と云ふに飛ぶ必要がないから、翅なく足なく、食物を取る必要もないから口も極く不充分で宛然蛹になる前の幼虫の様である。雌は數百の卵を自分の住みかとする袋の中に生み瘦せ衰へて死ぬ。卵は翌夏の初め孵化て小さき毛虫となる。毛虫は食を取る前に小さき袋を絹糸で造る。其から食をとりて漸々と生長し、生長すると共に袋を大くする併し一定の大さに達した後は袋を増大する事を止めて了ふ。

▲以上は極簡單に述べたミノムシの一代記である。讀者諸君は此中にても既に種々面白い問題あるを注意でせふ。假令ば何故ミノムシが木の葉や枝などにて巣を造り、擬態を爲す様になつたか、何故に水の中にもミノムシに類するものありや何故雌か一生を袋の中に住むか、何して翅、觸角、口器、脚が雌に無くなつたか等である。然し此等は暫く措きて余の最も面白いと思ふ現象に移らふ。

▲讀者諸君の多くは殘酷にもミノムシの袋を開いて虫を取り出し、小函に密閉し、美しき布の小片を入れて、ヨセフの綵れる衣も三舍を選くる程のミノムシを造られたる事がありませふ一度袋を造いた後に絹糸（體内にては液體なり）の餘分ありし事は以上の實驗にて證明せられました。然らざれば衣を剝がれた後再ひ新しき袋を造くる事ができない譯です。かく生物には災難を見計らつて、豫め準備をなし置く事があります。

▲高等動物の體にても重要な器管と數へられる肺臟の如き、腎臟の如き一對を有すれど、其中一を取り去るもさほど障害を生じないのです。是は肺臟腎臟に通常の仕事より二倍働き得る豫備の力があるからです。又一種の分泌を出だして體中に發生する毒を消しつゝある副腎及ひ甲狀腺は六分の五だけ除去るも、通常の官能を營み何等の惡しき結果を生じませぬ。膵臟は十分の一だけあれば、體に障害を生じない肝臟の如き重要のものにても、二分の一にて又時とすると四分の一にて特別の症狀を見せない事もある。消化器に就ては胃の全部を除去し、消化榮養に害なく、小腸の四分の三は贅澤品、唾腺なくとも食物はよく消化します。

▲以上は極少數なる例なれどミノムシの絹絲と對照して、生物か一方にては物質を節儉するにも係らず、他方には災難に準備するに吝ならざる事が知られます。是れ工學家が云ふ安全因數（Factor of Safety）と同じもので、丁度橋を造るに通常其上を過る重さの幾倍にも堪へる程の強さに造り置くと同じ。蒸氣瀛鬪を造るにても亦然うです。

▲然らば如何にして生物に此災難準備の安全法が出來て來たか、讀者木の枝にさがり居るミノムシを見るたびに。希くは此謎―生活の秘密―を解くに意を注がれんことを。

▲貴誌に對しては何も別に御注文も無之候へ共、要するに新人の姉妹雜誌として、飽まで時俗に超脱せよ、趣味清新にして教育あり思慮ある婦人の好伴侶たるものが欲しく候。昔日の女學雜誌の様な趣味をチト御加へ相成度候。婦人雜誌全盛の今日此の特長を措いて他に望む所無之候。

基督教世界主筆　加藤直士

現代女學界の管見

横濱女學校敎師　赤星仙太

十年毎に幕開きする戰爭は思潮推移の照尺に似て、女學界の趨勢亦此數に洩れぬ。即ち日淸日露兩戰役中間の十年間が日本女子敎育の隆昌期で、今は却て其反動として稍下火になつて居る。成程新興の女學校は續々として絶ゑない。然し其十中八九は皆實業敎育で學問よりも技藝に重きを置く。且在來の女學校でも漸く此顰に倣うてか、所謂實科奬勵の態度に出でゝ居る。之等は決して流行を逐ふとのみ蔑みすべきで無い、之迄何處にか潜んで居た要求が頭角を擡げて來たので、決して看過すべき現象ではあるまい。

社會が後來女子の學問に就て誤解して居たは事實で、或る意味に於て見當違ひの買被りも爲て居た。だから、其曝露に連れて一層手輕速成で然かも算盤にも合ひ金目のある職業熱に浮かされて來たも幾分恕すべきである。口を開けば直ぐ良妻賢母と云ふが、其實被敎育者は能ふべくば卒業後職業に有り附かうとし父兄も正直な所、賣物にでも爲やうと云ふ傾向が仄見ゆる。其れ故、卒業後安閑として家庭にあるも潔しとせぬ風もある。所が其會得した學問は之を實社會に應用して生活に資するに相應しない。然ればとて其間に覺れた家政裁縫が其家事經營に然程の實効を奏するもので無い。之等の理由から、女子の學問は詰らぬもの女子に學問は不必要否不向なものと見切つた結果、所謂實業敎育に力瘤を入るゝ事となつた。之が抑も正統女子敎育に反動を惹起した内的原因である。

それから時代の影響を蒙つた事も尠くない。日露戰爭は日淸戰爭以上に壯丁の死亡癈疾を醸し一家の經營者を失つた數は夥しい、從つて多少の素養ある女子をして家計を助けしむるに至つた。然なきだに財界の悲況は女子を驅つて幾らでも金を取らせる事に憧れしめ、官署會社の女子事務員採用は成績良好と云ふ評判と共に愈職業熱を煽り立てた。加之、之等時代の生活難が益々結婚難を增し來つた結果、猶幾多の疑惑の殘つて居る卒業結婚中間期の永びくに連れて必要もなきに職業を追ひ求むる樣な傾向を馴致し來つた。單に女子と云はず、經濟界の不況は金權の過重を醸し他方奢侈の風をも旺盛ならしめた今日、實業敎育の鼓吹せられて此處を女性の天國の樣に觀ずるに至つたも無理ならぬ。

時代の勢力の空ならざる以上必要に驅られての職業熱は決して全然滅却すべきでないが、女子の學問に見切りを附けた點は再考三思の餘地があると思ふ。成程女子の體質は男子と違はう、然し女子の學問咀嚼力必ずしも男子に劣らぬ、豐富なる蓄積の啓發に値するものがある。或は女子の細密忠實なる特性が男子以上に伸び得べき方面もあらう。今日の女子敎育が思ふ程成績が擧らぬとすれば、それは寧ろ敎育組織の咎である、女子の學問の適否は未だ未知數と云はねばならぬ。現行敎育で女子の負擔は家事裁縫等の爲めは男子以上であるが、早晩學科の輕減乃至合併が決行せられねばなるまい。其他之を天職と信じて當る者の尠い事や、コンデショナルの場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

合の多い事も女子敎育組織の不備を助けて居やう。之等の缺陷が幾らでも除かれ得るものなら、女子の學問に光明と希望とを生じ來る事と信ずる。然るにても、學問を金で値ぶまうとするのは全然誤りである。女子に學問は不向と云ふ事が若しも卒業後之を以て多額の月給を得られぬ爲めの結論とすれば實に由々しき事である。學問決して月給の資本で無い、其邊に餘裕の無い學問はものに成り難い。殊に女子に於ては、職業を得る爲めよりも寧ろ智能を啓發して自家の見地を廣むるにあると思ふ。

實業敎育の勃興と所謂實科の奬勵とは、有利金權に陷らざる限り空理空想を離れて實着ならしむる効果はあらう。然し女子の職業が不健全である事をも忘れて、家庭生活を蔑視せざる迄も之と遠縁ならしむるは實に憂ふべきである。所詮女子の王國は家庭である、余輩は殊に家庭を治むる事が日本婦人の天職であると認むる。日本婦人の天賦は着實である。內省である。之に反するは天職を忽せに爲るに當る。般鑑遠からず、職業の埒内にある靑年女子が其品性若くは肉體に於て面白からざる反應を呈して居る事は打消し難い事實で無いか病根未だ然かく膏肓に入らぬ者でも、斯種危險の淵に臨んで誘惑頻りに至りつゝある。斯くして他日或は妻となり母となる。人中に揉まれた爲めに美質が却て磨り減らされて居る。生活上止むを得ざるに非ざる限り、女子の職業は到底慍るべきで無い。

女子職業熱は獨身熱を釀しつゝある。獨身必ずしも排斥すべきでない、其間に生理的事由の存するか、女子たる天分を犠牲として迄も生計の爲めに終生を過さゞるべからざる場合抔は致し方も無い。まして鮮かに或る天職を自覺して身を之に捧ぐる場合には、獨身生活も貴ぶべきである。成程之等は女性としては缺けたる器かも知れぬが、石工の棄てた石も却て隅の首石たる事がある。然し、獨身生活は所詮除外例である事を忘れてはならぬ。實業敎育の勃興固より時勢の要求ではあらうが、其の實用を越わて一種の道樂とならぬ樣警戒すべきと共に、結婚が常態であつて其間に女子の天分のある事を忘却させぬ樣に爲たい。

余輩は決して時代の趨勢を呪ふ者では無い。然し此趨勢が誤解に基いて居れば之を糾さねばならぬ、惡傾向があれば未發に防ぐか、燎原の火とならぬ中に揉み消さねばならぬ。殊に我國に於て女子の地位の認諾せられたのは新しき歴史であるから、畸形にならぬ樣此搖籃期を啓導するが肝要である。其處は本誌抔が充分開拓すべき新緑の原野では無からうか。

新刊紹介

▲淑女の美徳　博士 ウイリアムセーシアラー原著　文學士 皆川正禧譯述　內外出版協會 發行價四十錢

貝原の女大學は明治の今日には適用すべくも非ず。さりとて福澤の新女大學も餘りにお轉婆婦人を造るの傾向なきに非ず。二十世紀の日本婦人の讀むべき讀物として適當の者なきに苦つゝあるの際、此淑女の美德を得たるを喜ぶ。本書は章を分つこと二十九、修養、品性、朋友、等より衣服言語、運動健康、母の力等に至るまで、處女として若くは婦人として心得べき事細大洩さず論述したる者なり。其說く所丁寧親切にして、總て實用的にして而も高尚淸新なる思想と品性とを敎ふ。殊に全文振假名附にして何人にも讀み得べきはかゝる書として用意周到なるを見るべし。虛榮心にのみ驅らるゝ當今の女子には此上なき好個の讀物なり。

（栖霞）

家庭

家庭における精神教育

▲英國家庭の禮拜

女子高等師範教授　宮川壽美子

一國は一家の集りで、各善き家庭が集つてこそ、善き國が出來る譯であります。英國等の如く立派な國になるには、各一家に善良の點がなければなりませぬ。それでだんだん注意して居りますと、總ての家庭といふ譯ではありませぬけれども、大部分は清き家庭で、兩親が大概宗教家で、其内には家庭の祈禱會といふものがありまして、其會は大抵夜の九時半頃ですが、兩親はじめ兄弟、姉妹、召使に至る迄、一同客間に集り、其日を無事に過した事の御禮を言ひ、神の祝福を願ひ、大抵は父が聖書を讀み、祈りを捧げ、兎に角寢る前に氣を落ち着けます。子供は早く七時頃にやすみますから、六時半頃にお湯を使ひ、子供室で輕き夕食をすまし、寢衣と着換へ、就床の支度し、母の膝下に跪き頭を伏し、自分に語る事出來ざるものは母が唱へ、自ら言へるものはたとへ片言ながらも、今日は樂しく遊びましたありがたう御坐います、今夜中寢て居ります間も、パパも惠み給へ、ママも惠み給へ家内の皆の者も惠み給へと、可愛らしき聲もて祈り、母がキツスして寢させますが、此祈禱會は中々力のあるもので、例へば太郎が外に出て勉强して居ります時も、父は太郎は此處には居りませぬけれども、一樣に惠み給へ、惡魔にも誘はれず、健康で居ります樣と、それを、二郎三郎が聞きまして、他日或學校に寄宿など致し、假令父が居りませずとも、毎夜の祈りを思ひ出し、自ら怠つた心も直す事が御坐います。現に或英國の若き男子が家庭で母親より受けた惠みは、一生付纒ふて自分を支へ助け勵ませてくれるといふ事は、自分に取つて如何程の力か分らぬと申して居りました。實に母親の感化力の偉大なる事は、今更申す迄もありませぬ。此外三度の食事毎にも、只當然の事とは思はず、其前には無事に斯樣に戴きますと御禮を述べて食べます。夫は父がし、又母がする事もあります。又子供が順々にする事もあります。即ち朝がメリーなれば、晝は其次といふ樣に致します。

▲我國家庭の美風

右の如く彼の國にては幼少の頃から、自分より上の人格を手本とするといふ習慣を養ます。此事は後來子供の爲めに實に有益の事で、他日親の膝下を離れ世の中の荒浪に遇ひました時でも、確乎たる精神を以て立つ事が出來ます。日本の家庭も昔より母親が非常にしつかりして、舅姑の爲めには

己の快樂も犧牲にして、言ひ度き事も言はずして暮して居ります。夫により自然と、克己の精神を實物教授で教へる樣な譯になりまして、自ら子供心にも浸み渡る樣になり、老いたる親にも義理堅くせねばならぬといふ事も教へられます。其上我國には佛壇といふもの、即ち先祖の位牌をまつるといふ事あり、老父母は燈明をあげて拜し、珍らしき物は第一に先祖に捧げ、新らしき着物を着て外出せんとする時は、先祖に御辭儀して出て行くといふ習慣がありました爲め、常に先祖の名を辱しめぬといふ事が、頭腦の中に浸み込みますからそれで日本國民は強いといふ譯であります。

斯う考へますと、東西を問はず、精神教育は大切で、併かも家庭で養成されるといふ事は、子供の時からでありますから、實に强大なる力であります、決して輕湖に考へて、子供に學校教育のみを施して、今申しました樣な眞面目の精神を家庭より取り除きましたならば、中々大變な事になりませう。然るに今の學校教育を受けた婦人達は、學校の智識にのみ走り、少しも眞面目の考なく、只流行を追ひ美衣を纏ひやれ音樂會の、やれ何々會の、又物見遊山のと歩き廻り、氣樂に暮したいなどゝいふ樣な、又人に嫁せんとするにも、自分が兩親の傍にありし時と同じく、否夫以上も贅澤させてくるゝ家でなければ行かぬなどゝいふ、全く虛榮心に支配されて居る人のあるのは實に歎はしき至りです。此の如き婦人は夫に對して妻は贅澤物となりますのみで眞に女子といふ根本の精神のないからであります。夫故に子供を育てますには只學校に通はせ大きくするのみではなく。眞面目の考を以て躾付けるといふ事が大切で、將來親の許を離れ世の中に立ちました時、如何なる場合に當りましても、其境遇を支配する事の出來る人を作らねばなりませぬ。之が又眞の教育を受けた人といふもので、此事は父親も勿論大事でありますけれども、母親が常に實踐躬行して、活きたる摸範を示し、且つ進歩したる考を以て導かねばなりませぬ。何處の家庭を見ましても、母親のしつかりとした內は、何れも榮ゑて居ります。又たとへ少々無學でもそうで御座います。

▲心掛けのよい婦人

昔の義士の中でも母の勵ましたものが多いといふ事で、以上申述ました精神教育のみならず、其家を起すといふ事も、婦人の力の與れる事は一例を擧げますと、金持が家宅田地を、又親讓りの人が財產を持つは當然でありますが、私の知人に始めは夫婦のみで併かも僅かの月俸で家、地所の持主となり多數の子供を善く教育した人があります。夫は矢張母なる人が確乎として居りまして、女中を使ふ力のある場合でも使はず、一生懸命に働き、家內の着物の支度掃除應對に至る迄、萬端朝から夕迄働き、又よく節儉にしてお金が少しでも蓄りますと、それを本にして例へば二百圓貯蓄が出來ますと、三百圓を足して五百圓の家を買ふといふ樣にします。そうすると三百圓の借金出來ますので、其れを支拂ふ爲め、一層辛捧して花見遊山も人の如くには行かず、働きますから、夫なる人も妻に感じて、無駄費をせず、子供も母の働くにつれて朝學校に行く前には雜巾をかけ或は庭の掃除等、各子供相當

に働きて、母の手傳してゆきます。そして子供は眼前に父母の如く働けば、あゝいふ樣にするといふ實例を見せられますから、猶一層眞面目に働きます。そして其婦人は忙しき中にも日曜日には、精神修養の爲め敎會に行きます。亦常には餘り外出もせず、無益の費を致しませぬから、時には御馳走を澤山に拵へ家内の者共喜びて食し、此の如く愉快の内に一生懸命に勤めますに依つて、其家計も漸々に餘裕を生じ、子供が大きくなり學資を多く要する場合に至りましても、彼方の貸家からは幾許、此方の貸家からは幾許といふ樣に、收入が多くなつて居りますから樂に敎育し又眞面目にする事が出來ます。

之に引代へ母親がしつかりせず、若き夫婦の内に子供もまだ小さく費用も少きに拘らず女中などを使ひ、少しも貯蓄などせず有る丈けにて物見見物と浮かれありき、又衣服等を作り無駄に月日を暮しますと、其子供も母親の行爲を見倣ひ、少き時より遊惰の氣を生じ、勤勉といふ事を知りませず、家賃は元の通り子供の養育費は增す、收入は他に殖えずといふ有樣にて收支相償はず、最愛の子供をも滿足に敎育する事さへ出來ぬ事があります。是れ若き内の心掛けが足らず、其日々々を樂に暮した譯であります。

▲女子敎育の眼目

斯う考へますと、中々に女子敎育は樂な事を貪つて浮いた考を持つ樣に育てゝはなりませぬ。前述の如く極めて眞面目に精神修養を怠らず、一家を治むる間に子女をして他日成長し、社會の一員となるに當り、如何なる場合にも境遇を支配して行く事の出來る樣、常に家庭で以て活きたる模範により健實なる思想を養成せねばなりませぬ。今や日本は國力を增進し、世界に發展せんとして居りますが、それには斯る眞面目の考を以て、眞實に子供を敎育する樣に、先づ婦人がならなければ立派になる事は出來ませぬ。

家庭衛生談

醫學士　金子魁一

此度本誌が發行せらるゝに就て親友の相原君から私にも何か書けと頼まれたのでありますが餘り面倒な事を申しても却て御迷惑でしようから、日常大切で素人の方にも出來得る事を申したいと思ひます。別段に一定の順序などは設けないで置いて其時其時で考ひ付いた事をいふ事に致し傍ら姉諸の御質問も登省したいと思ひますから。質問ある方は端書なり手紙なりで社の方に御申込み下さい。一體疾病は實際診察しても不明のことが少くない者でありますから。質問は成る丈明瞭に認めて下さい。それで本月は先づ

火傷に就て

といふ題で申しましよう。火傷はよく寒い季節に多いもので炭火、火焰、熱湯、蒸氣や腐蝕性藥品、即ち濃厚酸類（硫酸。硝酸の如き）又は苛性アルカリの溶液などに觸るゝ事や火藥燈用瓦斯。坑氣（鑛山などに發して居る一種の瓦斯）等の爆烈する時、其の近くに居たため蒙るものであります。それでありますから一寸した火傷から大にしては半身乃至全身

など炭化に至るまで實に種々の損害を起し多くの學者も火傷の度を幾つにも分けて記載して居ります。けれども茲では簡單に三つの度合に分ちて見ようと思ひます。

先づ一番に輕度なのは紅斑の形を呈するものでありまして。熱い物に觸れた處は紅く腫れあがりて可なり疼痛を伴ふて來るものでありますが、二三日の間に腫脹も疼痛も減じて遂には痕跡もなく治癒ります。序に申上げますが。彼の夏期に海岸などに行つて長い時間遊んで居ると背の皮膚が。眞赤になつてびりびりと痛み出す事がありますが。之れも輕度の火傷といふべきであります。

斯樣な場合には。ラノリン又は。ワゼリンを擦り込めば大變樂になり疼痛もなくなります。若し此等の藥品が手許にない時には氷囊を載せてやるか。冷罨法を施すのであります。別に瘢痕を殘す樣な事もなく奇麗に回復する事が出來ます。

火傷が少し烈しくなると。前に述べた紅斑の現象を呈する外に大小の水疱を作りて膨れます。此の水疱は少か數時間の中に生ずる事もあり又翌日に至りて見る事もあります。內容物は水の樣な透明な液が少し黃味を帶びた液でありまして時によると、血液などが混じて居ります。

此の水疱は通例極表面の方に起るものでありまして。角質層とマルピギー氏層との間に位して居ります。是より深部にある事は稀れであります。若しマルピギー氏層までも侵かさるゝときは。必ず後來瘢痕を殘すものであります。

水疱の底面は非常に感覺銳敏な眞皮でありますから若し水疱を破るときは此の眞皮を露出致しますため。非常に痛いのであります。既に一週間も經過すると底部には新角質層が出來上りますから。其時は水疱を破つても最早疼痛はありません此水疱の內容物も。漸時に吸收されて。小さくなり表面より乾いて來て水疱の表面をなして居つた部分は剝落ちて治癒るのであります。

療法としては第一疼痛を止むる事。第二失はれたる表皮を早く回復する樣にする事等を主眼と致します。疼痛を止むるために。モルヒネの皮下注射など行ふ事もありますが。是は素人には危險ですから。ワゼリン。ラノリンを用ふるか。硼酸軟膏（但三、〇プロセント位）を用ゐ。濕布繃帶を卷いて措けば宜しのです。之れで疼痛も減じ。表皮の回復を促がす事になります。水疱が大きいときには。小刀なり。はさみなりを熱湯に入れて消毒して、水疱の表面の皮を切り開いて內容を出して三、〇プロセントの石炭酸水で洗つて後に。酸化亞鉛か。次硝酸蒼鉛などを散布してその創面の乾燥を助ける樣に致します。水疱が化膿した時などは此手當をする事が必要です。火傷の度が。尙一層進んで來ると。痂皮の形成が起つて來ます。痂皮の形狀は極めて不同でありまして。其色は灰色褐色黃色等であります。此の場合にも輕い時には表皮より眞皮の一部分まで侵かされたに過ない事もありますが。重い場合には全肢又は半身も炭化して仕舞ふ事もあります。勿論痂皮の形成を起す場合には。如何に小な傷でも大低マルピギー氏層まで破らるゝ故。如何しても瘢痕を殘さない譯には行きません。それ故に大な火傷であれば後來甚しき醜形を殘し種々の官能障害を起すものであります。例へば頸部などに

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

火傷があれば。瘢痕のため引かれて頸が傾き所謂瘢痕性の斜頸を形成致します。又肢や脚の關節部などに起つた時には矢張り瘢痕收縮のため肢脚の屈伸が難くなります。

一體火傷は外の外傷と比較して見ても如何も性質よくないものであるから、斯の様な大火傷の際には早く醫士に診察治療を乞ふ方がよろしい。大抵同時に全身の容態に大變化を起す様な事あれば尙更の事であります。若し幸ひに火傷其物は治療しても大なる醜形を呈した場合には。醫士に相談して外科的の手術を賴むがよいです。手術と申しても簡單な方法で間に合ひますから決して生命に危險を招く事はありません。瘢痕の部分を切り取りて健全な皮膚を縫合はすか。又は瘢痕を取つた跡へ他から取つた健全な皮膚を移植するのです。之れを植皮術と申します。此の縫合や移植によりて生ずる創は火傷と異りて可なりよく治癒するものでありまして。少かの痕跡を殘す位です。特に顔面などでは切創は能く治癒る傾向を持て居ます。之は多分顔は血管に富んで居るからでしよう。

以上至極簡單に述べましたが。最後に一言加ひたい事があります。凡て火傷は廣く侵かさるゝ方が。深く侵かさるゝ時より恐く。輕度の火傷でも全身の二分の一に亘るときは必ず死を致し多くの場合に於ても。三分の一の火傷でも助かる事は稀れであります。でありますから一方の上膊前膊が悉く炭化する程の火傷でも。廣く半身に起つた場合よりも生命には安全であります。火傷で死ぬ理由は學者が色々の説を立てゝ居りますが。要するに二つであります。元來皮膚は新陳代謝を司つて居るものであるが火傷によりて其作用を營む事が出來なくなるから死ぬと云ふ人もあり。さうではない火傷の際に侵かされた組織の中に有害の物質が出來て。其中毒によるものであるともいひます。

懐かしき思出

みや子

此夜は少し風の心地で早寝をした。何だか思はぬ日間儲けをしたやうで、氣がゆつたりして、却て寝つかれない。で、あれこれと取留もなく今昔の追想に耽た。思は馳せに馳せて四十年の昔に歸つた。素より幼年時代の記臆であるから、切々であつて、前後の連續も何もない。そして中にはあまり漠然として夢現のわけ難い程のものもあるが、亦案外にはつきりしたものもある。丁度天井の高い〳〵薄暗い大廣間に、いくつとなくかゝげられた額を眺るやうだ。他人が見たらそれ程でもあるまいが、自分で自分の昔なしみの寫眞を見るのであるから、それは中々面白い、其事がらよりもむしろ其時の心持が殘つて居るので、何ともいへないなつかしい様な淋しい様なうら悲しい様な氣がする。中には滑稽で獨でにふき出したくなる事もある。其一つ二つを書て見やうか。

▲玉子焼

これは私が三四歳の時の事であるだらう何でも家族打揃ての食事の時であつた様だ。お臺の上に卵焼が出て居た。それが

あまり食べたかつたので、一番先に手つかみで取つた。すると父上は大變叱り給ふて、私を横だきにだいて、二階に上げるといつてつれて行かれた。梯子段の中程でごめん〳〵とお詫をしてやつとゆるされた。其後叱られてお詫をする時はいつでもこの時の事が思ひ出される。

▲夏の河畔

これは夏の暑い時であつた。廣い川の樣な湖水のやうな處に、二隻の小舟が岸邊の木蔭涼しき處につながれてある。其水の清い事水底の小石まで透通つて見ゐる。淺いかと思つて見て居ると、そこに二三人泳いでる人があつて、足を水底につけて兩手をあげても水上に手が出ない程水が深い。あまり深くてこはいやうでぞつとした。小舟の中でむすびを食べながら見て居ると、其おむすびを水中に取おとした。それが段々〳〵下へ沈んで行くのがはつきりと見ゐる。面白くてたまらない。水底に達したかと思ふと、小さな魚が澤山集まつて來て、それを食べる、で飯つぶを喰えてあつちこつちと泳でるのがおもしろくてたまらなかつた。それがどこであつたか何といふ所だか分らない只懐かしい氣がする。

お手玉　　吉田苞

▲父の横死

六七才からのはや、記臆がはつきりして前後の關係もよほどついて來た其中で、生涯忘れ難い深い印象を遺した最も悲しい記臆を記して見よう。

時は明治二年二月の頃かと思はれる。家内は上を下への騷ぎである。親戚社中の人々集り來りて、誰も彼も物凄い顔色をして居る。私はすまといふ十三四才の小間使ひをつけられて、遊びに出された。一かゝへの柳の木が水の方にさし出て居て、其根本に藤蔓がからまつて、それが段ゝ延びて、小さな藤棚が出來て居る。其下に石段があつて、それを下ると水際に行かれる。この石段は懐しい處である。春の暖かい日なぞは、こゝに腰を

かけて、小さな釣竿をもつて、針にご飯つぶをつけて小さな魚を釣つた。一度七疋釣れたといつて、大自慢をした事があつた。今日は其石段も面白くない。川ぞひの小道をあちこちとあるいて見ても、摘草をする氣にもなれぬ。あんまり不思議なので、すまになせ内ではあんなに騒いでゐるのかと、きいた。すると、すまは明後日御父樣が京都から歸りであるからだといつてきかして呉れた。が、なんだかそれは違つてる樣で合點が行かなかつた。内へ歸て見ると坐敷は一ぱいの人で、其中に朝夕往來し某家の母君か、聲を出して哭て居られる。大人が哭くのは初めて見たので、喫驚して、其隣席を見ると、そこに母上がゐられる。其母上の姿私は一目見て膝に取付て大哭に哭出した。これまでは片はづしとかいふ髪に結つて居られたのであるが、それをぷつつりと切さげにしてうなたれて端坐して居給ふ其樣子何とも理由は分らぬが只々なさけない樣で悲しくて哭いた。どの部屋へ行て見ても誰も彼も凄ましいかほをしてこわいやうである。又たれかに聞いたら今度は御法事があるのだといつてきかされた。翌朝祖母君のふところで目を覺して見ると、祖母君と兄上と何かひそひそ話して居られる。兄上の事であるやうなので、父上がどふなすつたのと尋ねた。すると、祖母君か父上が中風といふ病氣でお没りになつたから、おとなしくしなければなりませんといはれた。ア、そふかと、昨日からの事が合點が行た。其後幾年かを經て、其眞想を知る事が出來て、益々其時の物凄い光景が思ひ出されて、子供心に深く苦しい悲しい感じを刻んだのである。

▲家庭の雜巾

今これらの記臆を追想すると同時に、私は母上の事を思はずにはゐられない。今私はもう其時の母上をふり返つて見る年になつた。母上は未だ四十には達せられなかつた。父上は國の爲西に東に席温まる時がなかつたので、四十を越して母上をむかへられたそうだ。したがつて、二十あまりも年が違つて居た。母上の妻としてこの生涯は、決して長くはなかつた。其短い十幾年の間ですら、父上は留守勝であつたので、複雑なる家屋一身に引受けられた母上の辛勞は、到底今日の平和の家庭になれた我々の、はかられる處でない。が、母上はそれをよく治められた。順養子の制度で作られた家族であるから、姑と嫂と其子供三人つまり二人の姑に仕ふるといふ工合である。先の姑は私が生れる前に歿なられたので、其嫂なる方が我々の祖母君としてあつた。年も母上より二十も上で私は眞實の祖母君と思つて居た。祖母君として　實によかつたが、姑君としては仲〳〵六ケ敷かつた樣だ。其他諸方より集り來られた塾生もあり、多くの召使もあり、其中に立ちての母上の心づかひはどんなであつたろう。無論親子夫婦水入らずの氣安い樂しい味は知られなかつたのである。此困難なる複雑極る中にあつて、家庭の風波などゝいふものは夢にも知らない樣に我々を育てられた、母上の忍耐と手腕と雅量には、敬服せずにはゐられない。否、母上は決して手腕家といふたちではなかつた。むしろ從順で、温和で、公平で、同情の深い方で、そして判斷が明斷であつた。しかし凡てが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

服從的て、いつでも身を以て補ふといふ位置に立たれた。私が少し物事の辨がつく樣になつてから、母上が自分は家の雜巾であると云はれた事がある。段々成人するにつれて、其意味を合點した。實に母上は家庭の雜巾であつた。家の汚物を皆拭つて下すつた。それで一家が奇麗に治つたのである老年に及んでクリスチヤンとなられて、愈々其素養を全うせられた。實に其生涯は献身的標本であつた。我か生涯は母上のそれに比べておまりに安らかて勿體ない。母上を追想してはいつでも奮然として起ずにはゐられない。

思うたまゝを

元良よね子

僅か數月の短き間とはいへ、同じ窓の下に机を並べて學びし昔時の友橫井みや子樣、今は我が本鄕敎會牧師海老名先生の奧樣、不思議な御緣で舊にもまさる御交誼を被る此頃、暫く御目にかゝらねば何となうお懷かしく、少しお尋ね致し度き節もあれば、今日あたり一度お伺ひいたさんかなど考へつゝ、つひ先頃の事用達の歸途本鄕の通りを來ますと、十數步前に行かれる婦人のようも奧樣に似申したる後姿いよ〳〵近いて見れば果して奧樣、「マア」と互にうち喜ぶ。「今少々用事があつてお宅へゆかうと思うて」この仰うれしとも嬉しく御同道して家に歸りました。

さて奧樣の用事とは何かと承れは「此度新女界發刊につき何かものせよと幹部からの御命令である」と思ひもよらぬ仰、奧樣それはお門違、私に斯樣な事の出來やう筈なしと、再三再四お斷りまうして置きました。處が昨晚いよ〳〵幹部からの御催促、どうにもお斷りの道塞り何といたすべきかと空虛の頭腦をさん〴〵なやませましたが、

まづ一家の内には主人あり、妻君あり、其上老人もあり、又子供衆もあれば尙ほ賑かで結構、しかし朝早く起きて御飯を炊き其他掃除萬端、忠實に働くおさんもなくてはなりません。して見まするど新女界といふ御家庭には、御主人は無論のこと、奧樣も、御老人も、また花の樣な御子樣方も澤山におありでございますから、私も婢の一人としてこの淸い、美しい御家庭の隅になりと、起伏させて戴くことが出來ますれば、私に取りての幸と、かう存じました。只ほんの山出で、御用か勤まりますかどうか、自分にも大いに氣遣うて居る次第でございます。

唯思ひつきましたまゝをまうし上げて見ませう。

私が長男を設けました時は、まだ年齡も今よりは若く、大きな人形でも與へられた樣な心持で居ました。無論育兒といふことについて經驗はなく、又此頃の若い方々の樣に、學校で家政とか育兒とかいふ學課を授けられたでもございません。けれども幸ひ私は生來至て壯健で乳も充分でございましたし、小兒も極く壯かな質でしたから、僅かに私の老祖母の注意位を力に、まづ別段の故障なく生ひ立ちました。此兒が追々智慧づく頃でした。私の先生が決して子に負けてはならぬ一度負ければ二度負け、三度目には尙は更勝てぬものであ

る。斯うして度重なれば小兒は次第に我儘氣儘になり遂には箸にも棒にもかゝらぬやうになる。さうなつてから矯めやうとしても、骨ばかり折れて、到底無益なわざである。よく〳〵最初に氣をつけよ」と敎へられました。この先生の令妹は此事によく注意して、其お子を育てられたさうです。豫てお母樣の机の上にある物をいぢつてはならぬと、固くいましめて置かれましたが、お子樣はよくそれを守り、ある時お守が試に其お子の手を取つて、机に觸らせやうと致しましたら、急いで手をひき込ませたさうです。私は誠に感心いたしましたそして何事にも不行屆な私でございますけれども、此訓誡は是非守りませうと力めました。

よくあることですが、小兒が來客の前になど出て來ました時「お辭儀をなさい」と申しますと、素直にすることもございますが、時によると、棒の樣になつて中々頭か下りません。又時ならぬにお菓子をねだります。遣らぬとだゝをこねる、終ひには大きな聲で泣て畏す。うるさい子だと思て遣つたら最後、きつと又いたします。さらばと言つて泣くがまゝに放つて置くのも、あまりよい心地ではありません。のみならず、小兒に取りても不愉快にちがひないですから、なるべく斯る事に至らぬやう、豫てしつけておくことが大切であると思ひます。また小兒にも意志がありますから、さう〳〵言ふなりにもゆかぬ事があります。それ故とても小兒が承知しかねるとわかつた事は、命令的に言はぬ方が却て宜しいと思ひます。

ある方はそんなに窮屈にしつけたら、小兒か畏縮て仕舞ふだらうと思召すかも知れませんが、決してさういふことは無いと思ひます。親の慈愛は自然と、小兒の心に浸みわたつてゐて、小兒も親を慕ひよく親を信じ、我か親ほどえらい者は無いかの如く思つて居るものです。それに追々大きくなつて來れば、理會力もついて來ますから、親は自分を愛し、自分の爲めを思つて居るといふことも解つて來ますから、卑屈になる憂は決してないと思ひます。のみならず長ずるに從ひ、克己といふことの習慣を養ふ助けとなると思ひます。

小兒を育てるといふ事は易いやうで難く、難いやうで易いものであると思ひます。

▲豫て御計畫の婦人雜誌御發行の由奉賀候「新女界」とは餘程面白き標題と存候。深い意味を一句中に纒めてこの御苦心と存候。扨小生はじみな方が好にて高襟的に將た挑發的などなる、見るからに眼まぐるしき樣な雜誌は閉口に候。小生は米國的ならずして英國的なるを喜び申候。以上は內容外形ともに對する希望に候。現代を指導するは宜敷候も現代にコビヌ樣致度、今の思想を買被らぬ樣願度候。何も靑年の思想感情が悉く進步的で宜敷と申譯にも無之かと存候。要するに確乎たる主義主張あるを希望致候。

同志社女學校敎師　藤井寅一

▲內容に就ては何も申すともなけれど、願はくば新人の姉妹誌として、異彩を雜誌界に放つて貰ひたいものだ。讀者を得たいなんて云ふ事は二の次にして先づ日本婦人の見識を啓く唯一の女學雜誌として立たれたいものです。今一つは滔々たる婦人雜誌に宗敎の宗の字もない今日なるを幸、滋味溢るゝ信仰的記事を以て此大缺陷を十二分に充したいものである。世間はもう「何は如何にすべきか」的の雜誌にはあいて來て居りますから、見識を高め信仰を與ふる雜誌は廣めずして知られ、沽らんとせずして買はるゝと信じます。妄言多罪

大坂　有　富　生

湘南の春

鼎浦漁史

おさなくて予は海邊に人となり、鮮やかなる潮のみどり、青みわたれる空のいろ、波の遠音、うす霞、磯の香ひをことに好みぬ。國をはなれて十五年、みやこの春には慣れたれど、忘じがたきは故郷也、おさなき頃の天國也、銀座街頭の事しげく心いそがしき生活のうちにも、折ふし忽然夢むる如く、酔へるごとく、目に見ぬ或物に觸るゝ思ひす。その瞬間に。われ何ものをか慕ひつる、われ何ものにか憧こがるゝ、磯のにほひ、うす霞、波のとほ音、青き空、潮の碧。わが魂は海を戀ひて、しばし現實を離るゝなり。海を戀ふるの一念は、久しくわが歎び、わが病なりき。

こよひ春雨しめやかに、玉垂の音しきりなり。ふと青海をおもひ出でゝ、感興そゞろに湧くがごとし。海を戀せる孤心の歴史は、わが半生の歴史なりき。學に志してより春いくとせ海こひて予は海にゆき、海にゆきては靜かに物おもひ、慰めもゑつ、安息もゑつ、はては望みも得たりしか。これそも何の故にかありけむ、今にして想へば只謎にも似たり。されどそは美しき謎なりき。

はや七歳の昔となりぬ。かりそめの病をいやさんとて、われは飄然大城山下伊東の温泉にあそびたりき。春浅くして野に若草の緑もなく、日暮の森、椿の花のはづかに紅き色をそめぬ。淹留一個月、語るべき友もなかりしが、雨の日も風の日も、朝ごとに宇佐美への磯づたひ、荒浪打ちよする黒巖の蔭に、ひとり默禱をこらしたりき。何をか感じ、何をか祈りけむ、今は記憶にもとゞまらねど、只この海邊の默禱は、わが新しき生活の暁の鐘とも謂ふべかりき。わが靈魂の朧ろながらも目ざめそめしは其時なりき。海邊に立ちて朝風を呼吸しつゝ、はるかに大島の煙をのぞみ、わが魂はふるひ躍りぬ。わが渾身の血はわきぬ。われは猶ほ學窓の讀書生なりき。未だ爲すべき事業を知らず。われは猶ほ孤獨の青年なりき、愛の火は燃ゑて空しく胸を焦しぬ。詩を誦しては淚にたゑず、英雄を夢みては材の小さきを嘆じ、海にむかひて獨りかなしみ、悵然として若き愁に落ちぬ。愚かなりし予よ。此時若しも只一片、高きを慕ふの情念にしてわが此胸に消ゑたらんには、われ亦煩悶の俘となりて自ら救ひゑざりしならむ、祈りは予に力を與へぬ。慰めと望と勇氣を與へぬ。讃美し、靜思し默禱しつゝ、一月を海邊に過す裡に、身も魂も健やかになりて、われは自ら青年らしき希望の人となりしを覺ゑぬ。とある朝、日の光り花やかに海の色ことに美しかりしが、大岩のうへに佇みし予は、さながら玉座に在りし心地なりき。その時聲高らかに聖書の一節を誦じゐたりしが、忽然不思議の力

ありて、わが衷にうごくを感じたる折しも、白鷗とほく晴い て青空に消ゑ入る姿をみとめぬ。詩のごとし、夢のごとし、されど是れ忘られぬ事實なりき。わが信仰の新しき力はかくて伊東の海に生れぬ。

春のかほり

有田四郎

伊東にあそびしより三年の後なりき、われは再びかりそめの病をねて、小淘の磯にさすらひぬ。早川の流れ海にたちて、潮音夜な夜な夢圓かならず、ひとり一生の事業をおもうて爲すべき何者をも見出しゑず、悶々として惑ひ且つ病みぬ。哲學もわれを慰むる能はず。詩歌もわれを醉はしむる能はず。たゞ海原の青きを望みて、わが心やゝに和むをおぼゑぬ。海にいかなる神秘の力あれば、かくも己が心を悦ばしむる、われは自ら知らずして只海を戀ひ、海に來りて饑ゑたる心を滿たしめぬ。空想のたのしさよ、自由のこゝちよさよ、海にむかひて吐き盡せば總ての悶ゑは消ゑはてぬべし、われは早川の磯にたちていくたびか獨り思ひに沈みぬ。只二人、海と我と、神と我と。祈り且つ考へ、而してつゐに何物をか得たりし、海の敎は只動け、只働けの默示なりき。愚かなりし予よ。早川の磯の四五個月は、爲すべき業を覺り得ずしてたゞ悶ゑ、たゞ惑ひたる遊戯なりき。自覺はやゝに起りぬ。感謝す、相摸灘の潮の音は、われに使命を囁ぎたりき、ふたゝび都にかへりし頃はもはやわれ空想の子にあらず、光の子として世にはたらく一念深く胸におどりぬ。

早川にあそびて後復た三歳、運命は三たび予をして鵠沼の

寄たらしめぬ。もはや孤棲の身ならぬ予は、新しく且つ苦き試錬をこゝに受くべくなりぬ。春逝いて夏近かりしかど、心頭の風はつねに冷かりき。越えて又二年、ゆくりなくも鎌倉の里にして、ことしは驚きく可き身となりぬ。海を戀ふるの病ひは斯くしてやゝ治癒され、潮の碧、青き空、波のとほ音、うす霞、磯の香ひ、昔ながらの親しみを加へたれど、湘南春に消うて、半生の夢をたもへば、枝頭一點の花猶ほ且つ無量の意味を生ず。

十六櫻

高濱長江

Uso no yona,—
Jiu-roku-zakura
Saki ni keri!

伊豫の國わせい郡に、太昔から十六櫻と云つて、有名な櫻の木がある。其の名の起源は舊暦の一月十六日に、毎年〳〵其の花が乾度咲くからであるが、其の花の咲く時は、年中一等寒い。—普通の櫻はまだ〳〵どうして、只まう咲かう〳〵と春の氣節の來るのを俟ち遠く思つてる時分であるのに、十六櫻は乾度咲く。でも其の櫻は生命があつて咲くのぢやない。—少くとも其の木自身の天然の力で咲くのぢやなくて、其の木には人間の精が籠つてゐて咲くのである。

十六櫻の持主は伊豫の國の武士だ。して其の櫻の木は最初は其の武士の庭に生長して、普通の春季に咲いたのである。—普通の時と云ふのは三月の末方か四月の初めを指すが、彼の武士は自分の稚な時代に、其の木の下で遊び、其の又兩親や祖父母やずつと先祖までが、百年以上も其の花盛りの時には歌を書きつけた色紙の短冊を吊げたのである。彼の武士も斯うして年取つたし彼れが子供達も亦まう生長なつたから、彼れに取つては世界中に其の木に優つて好きなものはなかつたのに、氣の毒なことである、或年の夏その櫻の木はつい枯れて仕舞つた。

で其の老人の悲んだのは一通りではなかつた。其の時親切な隣家の人達は、其の老武士を慰めやうと思つて、美しい櫻の若木を見つけて彼れの庭へ植て遣つた。そして老人も彼らにお禮は云つたが、内心から嬉い譯ではなかつた。木が失くなつてからは、世の何物をも彼れを慰めるには足りないから實際非常弱つたのである。が遂に彼は良い思案を—其の枯れた櫻を生き還らす良い思案を考へ出した。それがれ正月の丁度十六日である。彼れは只一人吾家の庭へ下りて其の枯木の前で、れ祈をした。

「神さま、私は直きまう樹の庭へ參りますから、どうか此の木にも一度花を咲かして下さい。」

かう祈つたのは神さまの惠みで以て、人間が他人や動物や植物のためにでも、實際その身を犧牲とするならば—身代りとして捧げるならば、其の物が助ると信仰してゐるからである。

そして彼の老武士は其の木の下へ、白い布や樣々の敷物な

とを布いて、其の上に座りながら武士の風儀に倣つて、ハラキリを行つた。で其の老武士の魂が直ぐ其の木に移つて、櫻の花がパッと咲いた。

かうして其れからと云ふものは、今尚ほお正月の十六日に、雪の降つてるのに、其の花が咲くのである。

―小泉八雲作―

鶯

大塚楠男

昔々支那の國に一人の王樣が御座いました。其お城は大變立派で、其美しさと云つたらありません。廣い御庭には珍しい花が一面に咲き亂れて、お庭の中には又深い森があつて、行つても行つても果てが分らない程奇麗な綠の色が續いておりました。森の外は青々とした海で、木の間よりは大きな船が通るのも見られます。其海濱の森の梢に鶯が住んでおりました。其鳴く音の美しいと云つたら、其側で毎日釣をしておる漁師もつひ聞き惚れて、うつかり自分の仕事を忘れると云ふ程でした。

諸方の國から此の王樣の都に集まつて來る旅人は、誰でもお城とお庭の立派なのに驚きますが、此鶯の音を聞いては、之が一番だと言はぬ者はありません。此噂がだん〳〵高くなつたので、學者は王樣の都やお城やお庭の事を書いた本の中に、別して力を入れて鶯の事を賞め、詩人も海濱の森に住む鶯に就て立派な詩を作りました。

不圖した事から此本が王樣の目に入りました。王樣は黄金作りの椅子に腰をかけて此本を讀みますと、自分の都や城や庭が大層ほめてあるので、喜んで讀んでおられましたが、然し鶯が一番よいと書いてあるが、一體之は何の事だろう、朕はまだ鶯と云ふものを知らない。此樣な鳥が朕の國に而も朕の庭に居ると云ふのか知ら。一つ尋ねて見ずばなるまい。と云ふので御附きの侍從を呼んでお尋ねになつたが、拙者も一向存じませんと申す。が王樣は是非今夜鶯を呼んで其歌を聞かうとお仰るので、侍從はお城の中をあちこちと驅け廻つて遇ふ人毎に聞いて見ても誰れも知つたと云ふ人がない。室といふ室、廊下といふ廊下をたづねたけれど一向判然しません。そこで終に臺所の隅つこに居た、小さな憐げな娘に尋ねましたら、「鶯なら妾が知つてゐます。あれはネ、濱邊の木に住んでるんです。鳴く音がきれいですよ。晩方に疲れ切つて、病氣で弱つてるお母さんの事を考へながら家路に歸る時、あの鶯の音を聞きますと丁度お母さんに接吻される樣な氣がして、うれし淚が出て來ます」、と教へて呉れましたので、侍從は早速此小娘を案内として森の中に出かけました。

大分道の程をまゐりますと、遙か向ふの方に鶯の鳴く音が聞えて來ました。お聞きなさいあれですと小娘は枝の上に坐つてる小さな鳥を指しながら、鶯さんや、殿樣がご前で其歌を唱へとのお仰せですと申しますと、鶯は丁度玉を轉ばす樣な聲で、喜んで御うけを致しますと申しました。侍從も、殿樣もお前の立派な歌を聞きたいとお仰る。宮廷の賓客として

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今夜はお前を招待したいと思ふと挨拶しますと、鶯は身に餘る光榮と思つて勇んで宮殿へと參りました。

お城の中では鶯の音樂を聞くといふので、目もさむる許りの裝飾を施し、壁も床も金でつゝみ、金のランプが室一杯に飾られた美しい花を照した立派さは譬にもならない程でした大廣間の中央に玉座があり、其側に金の椅子が置いてあつて、鶯の坐る處です。宮中のあらゆる役人や貴婦人は有らん限り飾り立てゝ各々座に着いております。以前の小娘は御許可を得て戸陰から見ております。やがて鶯は歌ひ始めました。其聲の朗かで美しい事、世界にほんとに此樣な美しい聲があらうかと疑れる許り、聞いてる人々は眞實感じ入りました。王樣も非常に感動せられて、涙をホロ〳〵と流された程です。王樣は御褒美に自分の懸けてゐた金の頸輪をやらうとお仰つたが、鶯は陛下のお眼から涙が出るのを見たので何よりの御褒美で御座います。王樣の涙は格別の力を持つております、妾が充分報いられたといふ事は神樣がご存じてゐらつしやると云つて、頸飾は御辭退し乍ら、も一度、以前よりはもつと朗かなきれいな聲で歌ひました。其室に集つて聞いてゐた貴婦人達はひたすら感心して、自分等も鶯になりたいと思つた位でした。其所で鶯は宮中に留められて立派な籠の中に入れられまして但し日中は二度、夜は一度森に出て散歩してもよいといふ事でした。

或る日の事王樣に大きな包が屆きました。其上には「鶯」と書いてあります。王樣は之は確か鶯に關した本に相違あるまいと思つて解いて見ると、本ではなく、寶石で彫刻した小さな鶯でした。まるで生きてる樣に上手に作つてあつて、螺を捲くとほんとの鶯の樣に歌つたり、尾を上下に動かして、羽根は金銀の色でピカ〳〵しております。之を珍らしがつて、宮中の人々は大喜びであります。其中にはほんとの鶯と此作り鶯と合唱させたら面白いだらうと云つた人があつたので、早速合唱させて見たが、各自の唱ひ方が違ひますので一向調子が揃ひません。此度は別々に歌はせて見ますと作り鶯の方が却つて上手らしく歌ふし、卅三回も歌つて一向疲れた樣子が見ゑません。王樣は眞實の鶯に一度歌はせて見ようとお仰つたが。其時は已に開けてある窓から綠の森に飛び去つた後でした。集まつてゐた人々は、恩知らずの鶯奴と惡口したが、ナニあんな奴が行つても此作り鶯さへあれば差支ないと云つておりました。

眞實の鶯は宮殿から追はれて、僞りの作鶯は玉座の側の絹張の床の上に坐し、方々からの贈物は身の廻りに堆高く、名を帝國最高夜中唱歌者と賜はり、位階は左側の第一位に坐すると云ふ勢い、誠にすばらしいものでした。

一年許り經過してある晩の事、王樣は作鶯が歌ふのを床の中で聞いておられましたが、鳥の腹の中で不意に何かグヾヽと云つて飛び出したものがある。螺旋がすつかり解けたので鶯はもうちつとも音樂を發しなくなつた。王樣は早速醫者を呼ばせたが、醫者は如何する事も出來ないと云ふので、此度は時計屋を呼ばせた。時計屋はいろ〳〵工夫して見たあと、機械を元通りにしたが、之は大切に取扱はねばなりません、二度と新らしいのを造るわけにはゆきませんからと申しまし

た、然しそれから後にも度々此鳥に歌はせたのが過度だつたのですが、樂長が以前と同樣少しも差支がないと云ふので皆左樣信じておりました。

　これから五年許り經過しました。王樣は一寸した事が源因で、重い病氣になられ、此後もう長くは生きられまいと云ふので國中が大變悲しんでおります。王樣は青白い顔色をして殆んど死んだ者のやうになつて床の上に寢ておられます。お附の者は足音を立てない樣にと、廊下に布を敷いたりして、萬事靜かに〳〵とやつておりますので、お城の中は火が消ゑた樣で誠に寂しい有樣です。人民は新らしい王樣を選ばうなどと寄々相談を始めておりますが、王樣はまだ死なない。片息になつたまゝ力なく寢ております。月のよい晩でした窓を開けますと月の光がサット室の中に流れ込んで。王樣と作り鳥をあざやかに照しました。すると王樣は俄かに呼吸が苦しくなつて來て、胸の上に何物か乘つてる樣な氣持、目を開けて見ると「死」といふ幽靈が側に立つてゐて、之れ迄生前にいろ〳〵やつた惡い事を目に見せて、お前は之を覺ゑておるだろう、之も記臆しておるだろう、と云つて迫め附ける。王樣はもう溜らず、音樂だ〳〵、其音樂の音で外の音が一切聞ゑない樣に、オイ、お前、立派な作り鳥、歌つて呉れ、朕はお前に金や寶物を澤山與へたぢやないか、歌へ〳〵と叫んでも作鳥は只ジットして眺めておる許り。螺が切れては作鳥も仕方がないのでした。

　と不意に窓の處で奇麗な立派な歌聲がした。夫れは生きてるほんとの鶯でした。彼女は王樣が御病氣と聞いて慰藉と希望の歌を唱はうと思つて來たのです。彼女が玉を轉ばす樣な聲で歌ひ出すと、幽靈の力はだん〳〵かすかになつて、王樣の身體の血は益々勢よくなつて來ます。幽靈は苦しがつて、此小さな鶯奴、サッサと出で失せろと怒鳴るけれど鶯はそれに負けてゐず益々聲を張り上げて歌ふ。日の光が夜露にしつとりとした薔薇の花の上にチラ〳〵照り出す迄歌ひ續けますと流石の死の幽靈も仕方なく白い霧の樣に消ゑ失せました。王樣は、天子のやうな鶯よ、難有う〳〵、朕はお前をよく知つてゐる。お前は朕の宮中から追はれた鳥だ。けれどもお前は惡靈を歌ひのけて、朕を助けてくれた恩人だ。御禮は望む程やるから遠慮せずに云へとお仰ると、鶯、御言葉は誠に難有御座います。陛下は私に已に御褒美を下すつた。それは妾が最初に歌つた時、陛下のお目に涙を見ました。それを忘れません、夫が歌者の心を慰める寶石で御座います。お休みなさい。そして妾は一日も早く御壯健におなんなさる樣に祈つておりますも。一度歌ひませうかと云ひ乍ら再び歌ひ始めた。王樣はそれを聞きながらスヤ〳〵とお眠になりました。翌朝日の光が一面に當つてセイ〳〵した氣持で王樣はお目醒になりました。召使はもう疾に王樣は死んでると思つてるから、誰一人も側に來ない。只鶯が獨來て王樣の爲めに歌つて慰めております。王樣は鶯を大變なつかしがつて、お前は何時迄も此處に留まつてゐてくれ、そしてお前の氣の向いた時でよいから歌つて聞かしてくれ、見度もない此作鳥は打ち碎いてやる、とお仰るのを、鶯はそれを止めて、彼れだつて出來るだけの事はして來たのです。どうか今迄通り愛してやつて

下さい。妾は宮中に住む事は出來ませんから、緑の森に歸して下さい。晩になると梢に坐つて陛下に何か歌つて喜ばせ申しませう。只一つ御約束を致さなければならない事は、誰れにも妾の事はお仰つて下さるな。その方が王樣の爲にも亦妾の爲めにも却つてよい樣になりますから、と鶯はスツト飛び去つて仕舞ひました。其處に召使が一人。死んだ王樣を見に來まして、樣子が違つてるのに吃驚りして、目をみはつてゐりますと、王樣は元氣のよい爽快な聲で、イヤお早うとお仰いました。

少年の印象

瀲橋

五軒目に弓術を敎へる老人が御座いました。私は家中の遊に厭きると、何時もそこへ行つて遊んだもので御座います。老人の孫に信ちやんと言ふ私と同い年の子がをりましたし、それに弓を引くのが面白いので、私は始終その家へ行つて遊んだので御座いました。

信ちやんは私などよりは丈も高く、肥ね太つた子で、大人の引く强弓を易々と引いて見せました。そして廿五間を隔てた的によく的中させました。

信ちやんの家では老人夫婦と信ちやんだけで、寂しい暮しをしてゐたやうで御座います、御祖母さんは何か病氣で、起居も出來なかつたのに、少し僻んだ人と見ゐて、よく小言を言ふてゐるのを、私も度々聞いたもので御座います。信ちやんはそれが始まると何時でも口答をして、御祖さんに惡口を吐きました。お祖母さんは腹を立てゝ吹管を投げる。そう言ふことが一日に何同も起つたので御座います。

そこへ、信ちやんのお母さんと言ふ人が、二人の汚い女の子を連れて、ぶらりと田舍から歸つて來たので御座います。顏立の馬鹿に大きな脂肪で固まつたやうな、肥大い女で御座いました。女の子と言ふのも肥大つた子で、蛙のやうな目をぱち〳〵させてをりました。

この間も、私は松脂を取つて來ては弓弦に塗つたり、明竹を切つて來ては火であぶつたり、別に遊ぶことがないので、入浸りのやうに矢場へ行つてをりました。

信ちやんの脊戶から掛けて、四五軒の脊戶は、籬根越しに自由に通ることが出來ました。屋敷は隨分廣かつたので、大勢私達が集まつてはそこで種々の遊びをいたしました。そこには大きな池が三つ御座いました。信ちやんの池の水は永久に朽腐つてをり、釣糸を垂れても魚などは一尾も釣れることは御座いませんでした。私達は其池の水面に倒れてゐる太い柳に載つかつて、足踏をしては、搖々と動くのを喜びましたその隣にある池には中島が御座いまして、それには十丈ばかりの高い木が生ゐてをりました。秋になると何か黑い木の實が落ちる。私達はそれを拾つてよく打ち合うたもので御座います。夏になると其あたりに草が人の脊丈よりも高く生ゐ、行々子が巣を作る。『がらがらんず、がらがらんず』私達の耳には、その聲がこんな風に響いたので御座います。『がらがら

んす」の卵を取らうと言つては、深い泥の中にはまつて泣くことも度々で御座いました。

池の周圍は皆畑で、畑でない所には多く梨が作られてをりました。夏から秋にかけて、私達はこの廣い屋敷内を縱横に驅け廻つて遊んだので御座います。

その時は夏の末で梨がもう良い位に熟れてをりました。私達は二三人して西隣りの梨畑を覗き込みました。西隣は嚴重な離がしてあるので自由には行けなかつたので御座います。

「誰もゐないぜ、隣りには」と一人が言ひました。

「戸が閉つてゐらア、信ちやん取つて來な」と他の一人が言ひます。

「よし來た」

かう言つて信ちやんは矢庭に離を乘り越して行つて、どん／＼隣から梨を投げて寄越しました。私達はそれを拾つて腹が痛くなるのも知らずに、鱈腹食べました。

それから餘程經つて、私は向側の重ちやんや隣の金ちやんや信ちやんや其他四五人で、濠の魚をすくつてをりました。雨上りで、泥だらけの水がどん／＼流れて來ます。魚は少しも取れないで、古下駄や靑菜屑などばかり拾うてをりましたその時、信ちやんが、

「明日芝居に行かないか」と皆に尋ねました。

「芝居？行かう、行かう」と皆が答へました。

「三郎さんも行くだらう」と私が默つてゐたので、信ちやんは確めるためにかう言ひました。私も行きたいとは思ひましたが。

「行きたいけれど――明日は日曜だから」と言ふと、

「耶蘇へなんか行かんでもいゝぢやないか。芝居の方が面白いよ」と傍に立つてゐた重ちやんが言ひます。その時誰か「ちんぼことーりの大先生」と大聲に叫ぶと、皆一緒になつて私をはやしたてました。私は泣いて家に歸りました。日曜には芝居へも敎會へも行きませんでした。

その日曜が過ぎてから私は信ちやんの家へ行つて見ました。

「信ちやん、信ちやん」

呼んで見ましたが返事がありません。格子の處で聞いてゐると、信ちやんが御祖父さんに叱られてゐる樣子なので何か知らんと思うて聰耳を立てました。言葉はよく解らなかつたで御座いますが、それはこんな事であるらしかつたので御座います。先日、信ちやんは簞笥を開けて盜つた金で芝居などへ行つた。『不埒な奴じや。出て行け』と言ふ聲がしましたので、私は密と家に歸つてしまひました。

その頃私の祖父頻死の床に就いてをりました。或日私は遊び疲れて歸つて來ると、もう夕方で淋しい風が吹きました。並木の木の葉がちら／＼落ちて、それが陰つて行く夕べの色に交つて、薄明の觀念をやゝ際やかにいたしました。二人の順禮が何か歌うて家の前を靜かに通つて行きました。一人は私ぐらゐの年恰好の女の子で御座いました。私がはかないと言ふ感じを朧ろげながら感じたのばその瞬間であつたとも言ひませうか。

　　これはこのよのことならず
　しでのやまぢのすそのなる

さいのかはらのものがたり
きくにつけてもあはれなり
二つや三つや四つ五つ
十にもたらぬみどりこが
さいのかはらにあつまりて
ちゝこひしはゝこひし
こひしこひしとなくこゑは
このよのこゑとはことかはり
かなしさほねみをとほすなり
かのみどりこのしよさとして
かはらのいしをとりあつめ
一じゆくんではちゝのため
二じうくんではは〻のため
三じうくんではふるさとの
けうだいわがみとゑかうして
ひるはひねもすあそべども
ひもいりあひのそのころは
ぢごくのおにがあらはれて

……………………

順禮は薄暗い中に沈んで行きました。

明る朝、私は外で遊んでをりましたが、朝飯に呼ばれましたので、駈け込んで家に入りました。親類のあたる處には赤い丸が現はれて。それが直ぐ緑色に變りました。私はそれを御祖父さんの魂だらうと思ひました。その夜祖父は死んだので御座います。

祖父が死んでから間もなく私は市の南の方へ引越してゐりました。引越してからも度々信ちやんの處へ遊びに行きました。一年も過ぎた頃には、こつちの方にも友達が出來ましたので、信ちやんの方へは漸次足遠になりました。

或日私が學校から歸つて來ると。お母さんが、

「信ちやんが昨日死んださうですからね、今から直ぐね、御葬式へ行きなさい。」

「信ちやんが死んだ？信ちやんが……眞個？」

「ああ眞個ですよ、今朝ね、お前が學校へ行くと直ぐ御報告が來たんですからね」

私はその瞬間に私の汚れた過去を思ひ起さずにはゐられませんでした。私は其時まで、まだ十二三歳の年齢なのに、取り返しのつかない、拭ふことの出來ない、種々の汚濁に染まつてゐたので御座います。今までは思ひ出しもしなかつた自分の生活がその時、歴々と私の目に映つて參つたので御座います。私はその日から人知れぬ苦痛を感ずるやうになりました。

暫日過ぎてから、私は信ちやんの町へ參りました。先年信ちやんの家の軒下に切挿にしてゐた柳が青い芽を吹いてゐただけで、『弓術指南』といふ看板は取去られ、雨戸も暗く閉されたまゝで御座いました。

私は二十二の年に始めて故郷を出ました。方々を瓢浪て、三年ばかり過ぎてから、或夏久しぶりで故郷に歸りました。

七月の暑い日光が砂塵にくるまつて引いてゐる人の身體を燃しました。一寸用事がありましたので、町へ行きますと、

學校の引け時を見わて、一團の少年が、驅けたり、石を投げたり、歌をうたうたりして、大騒ぎをやりながらぞろ〳〵續いて來ました。私はそれとすれ〳〵になつて砂塵の中を向うへ歩いて行きました。一時も行かない中に私と同年輩ぐらゐの男が、この署いのに汚い綿入を着て、にや〳〵笑ひながら、小供達に笑はれながら、歩いて來るのに遇ひました。見ると信ちやんで御座います。私は少し腦貧血を起した風でしばらく茫然いたしました。

「信ちやんはもう死んだ筈だ」

私はかう獨語してさつさと行つてしまひました。(了)

木の花

佐藤茂

山上の雪と舵の木の花に雲は流るゝ大富士の春

○

園の花むらむらと咲く山に春の日照りてはだら雪せり

○

神思ふ胸内のごとくみやびかの森の光は天地に滿つ

○

春雨にぬれし百草むらさきの若き芽生みぬ古甕のもと

○

こゝろいま神を感じぬ天上ゆ吹く風に觸れ花そよぐごと

○

しろき花あかき花をば摘みためて抱き寢ねてき母に添ひつゝ

○

上目して赤き星見る花櫛の乙女に散りぬ山ざくら花

○

神に觸れ靈の華咲く春の日に百千の花の咲きさかるごと

○

ほがらかに春の鳥なき木は赤く花房つけぬわが屋めぐりて

○

しめやかに雨のふる日を木の花は幹を傳ひてほろほろと散る

折にふれて

せい子

歌あれど調べはなさず苦しさは
涙おさへてほゝ笑む樣か

○

あやにしきまとはゞ足れる我世とも
思へる君が若さうらやむ

○

幼子はゆめに笑らひぬ春雨の夜を
小甕のはなのほろゝ散る時

○

事務所のあけくれ

せい子

十坪には満つまじき四角の庭にさりとは塵多き都のかり住居にはふさはしからぬ「さび」を帯びて、梅の古木二本幹には苔さへ青う蒸したるが、花大方亂れて續く小雨に見る影もあらねど、垣根の乙女椿は蕾多くは紅に燃ゆ。何處ともなき春の「若さ」に胸躍りて我ながら覺束なき筆に任かせつゝ事務所のあけくれものする氣にもなりぬ。そは此度新女界の世に出づるや俺迄も内輪の手料理主義に、例へば事務所の下婢役たる妾迄も狩り出されし所以にて前垂襷の雑作なき姿は讀者諸君の御ゆるしを乞ひまつる。

もとより些やかなる住居の發送編輯會など殊更なる時の外常には玄關三疊の窓ある方へむけて机一つ横に二尺ばかりの棚三つばかりを設へたるに、帳簿五六冊書籍入のボール箱二つ三つ雑作もなう措かれたり。

此頃に至りてやゝ用立つ書棚を購ひ得しうれしさ、寄贈の書籍雑誌など多くはこゝにならべり。

扨打向ひて其日〳〵の事務果し終る迄の面倒さ、さらでも不得手な金錢の出納、帳簿のあつかひ、書信の往復、少なくも一二時間は木石同様死ぬるが必用にてかゝる事によくも我日のあけて、我夜のくるゝものと自らあやしうこそ。されば折ふし途方もなき失策を出來し、したゝか讀者の叱責を蒙る事もあり。幸に正面ならねば顔も赤めず濟む譯なれど……月末より月初にかけては殊の外にも忙はしく編輯係、廣告、集會係夜に日を次ぎ給ふ事珍らしからず。一日一刻を爭ふ樣になりて海老名先生の社説の遲るゝはまだしも、山路樣小山樣は毎も電報にてさわがせ給ふが例なり。此頃にては電報の効能一錢五厘のはがきにも劣るとかカンフルの注射もかくては頼み少なきものと專ら社中の噂さ。當にせられたる海外通信の一向に沙汰なき此は電報手段に依る譯にも行かねば編輯者苦心の恨みは凝つて米國にも飛びしなるべく、英國にも走りしなるべし。内ケ崎の君遙かに惡夢におそはれ給ひし事はなきかかくてもお得意の居眠りは廢し給はざるや。さるにても三澤の君が此頃如何にも上手に誌上を遠のき給へる憎くさ、今は

一年一回の通信さへ仲々の事となりぬ。此君アメリカへ渡り給ふ時は切りに算盤弾きの無趣味を訴へまゐらせしが、爾來六年今もなを、算盤の珠の音妙に冴ゆる燈火の下遠き君が御上思ひ出づるぞかし。

月々のがれ難く苦しき中にもやり終うせではならぬ大役は發送なり。三千餘の内三分の二は市内及び地方の書店に卸し殘り千餘は一つ〳〵、かねて用意せられたる帶紙に包みて局へ送る。前者は專任者あれど、個人の方は事務所の者下女迄かり出され二三時間は恰も戰さの樣なり。かゝる處に折あしく來合せたる人こそ不覺、誰ともなく引捕へて職工の仲間入りさせでは止まず。嘗ては主筆海老名先生を始め内ケ崎、小山、三濱の君方も此手にかゝり給ひし事もありし。今は大阪に在ますと聞く、「高見」といふ方新人發送としいへば必らず手傳ひ給ひしが此君大の甘黨におはして加勢に事よせ其日のお菓子をねらひ給ふなれば氣の向かぬ日など前後五六冊チヨイ〳〵手を出し「まだ濟みませぬか」とのみ繰り返して、はては其頃の評判となり「高見さんのお手傳」と仇名せし事もありしが、思へばそれも舊き物語となりぬ。今は鈴木の君、相原の君等、「新しき新人」を早く見たさの餘りには能く發送最中に來合せ捕へられては否應なしに手傳ひ給ふはよけれど其手つきの面白さ、此君方多ければ多きほどに議論はづみて手ぬるく、遂には口のみ進みて手はお休みの事もあり。折々は鈴木の君が思出した樣な掛聲に一座驚いて笑ひくづるゝ等、職工としての價値はげにあやしきもの多年事に馴れたる女中のとみが此處のみには「我在り」顏なるもおかし。

新女界生るゝに就て實は前の新人編輯主任鈴木の君が不斗した筆のまぐれに吹聽早きに過ぎ、内部の相談さまで熟し居たる譯にもあらねば、二月は延びて三月に三月遂に四月となりしが、夫にても上の上出來、さて愈となれば名目一つにも仲々多くの頭腦を費したるが、海老名主幹御夫婦。安井主筆を始め社員打よりて一夜の評議女子新報、新女學。女子新誌女の光、「ときわ」などゝ何れも似たりよつたり、此はと云ふが天よりも降らず地よりも湧かず、未に三人も同意者あるはやゝ優勢なれど手強き反對の一人もあれば又くづれ、ならんとしてはならず、新女界といふは語呂わろし等說起りて危き運命に在りしを折柄新に來合せまし〻吉野の君が賛成に力を得つ、相原の君胸撫で給ふ。けだし新女界と云ふは此君の命名にて既に新人誌上吹聽せられしなれば勝れてよき名の出で來ぬかぎり改むるも好ましからずとて遂に先んじ給ひし君は總べてを制し給へる譯なり。

又一夜同じ新女界に就きての相談ありしが、前同樣集ひ給ひしは九人、此度議論の花は多く表紙の畫題に咲きぬ。花の如き幾多の婦人雜誌界に產聲擧ぐるなれば、親心「せめては」の一念に驅られ、何とかよき物はなきか、美術專門の立場より有田の君は三色刷にせでは圖案の立て樣もあらずと云ひ張り給へど、經濟係はなか〳〵應ずる氣色も見へず。相原の君は新人の姉妹なれば同樣の題を取りたゞ新人の黑き線を朱にせんかと堅く持し給へどそれも女性の讀物にはふさはしからずとて止む。安井主筆は寧ろ意匠をぬきにするを賛成し給ふ。經濟係は圖案は何れとも目次は是非表紙面に出す樣にし度しと

云ふ、實行に係はるとか小山の君はそんなに大家を氣取らず二色にて工夫してはと有田の君にせまり給ふ。斯くて評議マチ〳〵其夜は遂に表紙のみは定まりかねて散會せしが、三四日經ちて出來しは則ち今、讀者諸氏の見給ふ物、有田の君がこれならば「やゝ」と許します丈け衆人の一見にも直ちに云ひしれぬ快感を與へ。されば〳〵と折柄、來合せられし相原の君など手より手に渡り行く內、歌題にてもなりそうなど口すべりしが、さらば此題にてなど云はれ、今となりては心にみつる歌も得ず。只管に居寒き心地もせらる。其日相原の君を伴ひ有田の君が會計係より西洋料理の振舞を受け給ひしも道理、強ちに表紙面に目次ならべし故のみにもあらざるべし事務所のあけくれ綴り來れば限りも知らず。夜もいといたく更け行きて小止みなき小雨の音のみぞ耳に立つ。たぐり餘れる胸の緒は又の日にとて殘しおく。

子供奉仕同盟

▲過般中吾國に來遊されて居つた、英國貴族ミース伯爵夫妻は一の使命を、吾國の子供及び其保護者に齎されました。それは外でもなく題の如き會であります。伯爵は東京、京都、神戶其他各地に開かれた歡迎會の席上で此會の歷史や性質に就いて述べられ、吾日本にも其一支部が早く組織されんことを望まれたのであります。

▲此會は數年前ミース伯爵夫人の主唱によりて始めて英國に出來たもので、皇太子妃殿下が其庇護者に頂き、倫敦の監督僧正が其會長となつて居つて、只今では大英國及其殖民地や屬國をはじめ、米國、獨逸、露西亞及伊太利に其支部が設けられる樣になりました。で其目的とする所は富豪、貴族、上流家庭の子供に慈善心を養成し、進んで世の貧者、孤兒、不具者のために力を盡させるといふにあるのです。現今では英國に八軒の家屋を慈善事業のため使用し、其他太洋州に五棟、露西亞に二棟、埃及には盲人授產學校が一つ、北米合衆國には印度人のため禮拜堂ができてゐます。此外各地の病院に此會で維持してゐる慈善用の病床があります。

▲以上は外形に現はれた事業でありますが、本會の目的とする所は是れに止るのでありません卽ち子供の慈善心を養成するのが本會の目的であるから本會に入つた子供の會員は何れも、毎日一つの親切な行をなすべき義務があるのです。勿論子供をして此の義務を實行させ、隨て本會の目的を遂するには、長者の監督や指導が必要なわけですから、其母親又は兄弟姉妹達の入會も共にしなければなりません。つまり本會の主とする所は子供に親切心を養成するといふのにあるので、慈善事業は其の團結の要件として實行されるのです。

▲尤も本會が基督教國で出來たから、之を實行するにも宗教的であります。卽ち會員は凡て次の樣な御祈を捧げる事になつて居るのです。

愛し玉ふ父よ。我儕をしてキリストの眞の僕仕ふる小兒たらしめ、他人に愛、親切の種々の助をなさしめ給へ。貧しき者及苦しめる者のため同情ができる樣に、且缺乏して居る總ての者を助くるやうに用意を我等がなし得る樣イエ

スキリストに依りて願ひ奉る。アーメン

▲かく本會は基督教主義をとりましたけれど、決して宗派的根性なく、人種や階級及信仰教義の如何をとはず、皆愛を以て交り相助け、如何に神を愛し且神に仕ふべきかを學ばんとするのです。故に基督教のなき印度などで此會を起す時は、親切同盟といふことにしてやつたそうです。（蕾薇生）

▲新人は六年以前に交りを結びし友に候。爾來いよ〳〵其親しみを深くし、殊に地方に參り申候てよりは、私にとりて教の友むしろ師として、いつも豊なる靈の糧をもたらし來り、私を慰め勵まし教へ導びかれ候事とて、常に奥の淸水を慕ひ求むるが如く、毎月一日同人の訪れを待ちこがれて暮し申候。然に此度同人の姉妹雜誌新女界が、安井先生を主筆として生れ出づる樣承り候時は狂するばかり悅び申候。近頃婦人の雜誌上にて屢々先生の御說を拜見いたし候時はいひ知らず悅しく存居り候へしに、只今よりは海老名先生宮川先生其他諸先生の有益なる教へと共に、同誌上にて拜見するを得るは誠に大なる幸福と存候。同世の或識者が現代青年女子の浮華に流れゆくを嘆ぜられしを聞き、同感の節もあれど、一面それ等の人々の女子に對して盡す親切の至らぬ處ある樣に存られ候。舊道德頽れて新道德未だ明かならざる此過渡時代に於ては、女子が最も苦痛多く且危機多しと存候。此際新女界が新人の姉妹雜誌として生れ出で、兩々相俟つて其救濟指導に效果を舉げ得るとは私共の信じて疑はざる所に候。かへす〴〵悅ぶべく祝すべき事と存じ思ふがまゝを申述候。かしこ

名古屋　けい子

三月婦人雜誌寸評

◎毎月はじめ書籍店頭にたつて見ると、文學、青年、實業、學術等諸雜誌の間に交りて、讀者の眼をひかんと、綺羅紛然の姿とり〴〵に、堆高く居並ぶ婦人雜誌の數多きこと、何れを先にと手も出せない程だ。併し手に取つてよく其實質内容を檢して見ると、中には外見のはでやかで、彩色濃艶をきわめたるにかゝはらず、中味のまづさ加減、これが現代婦人の讀書趣味を現はしてあるかと思へば、むしろ情なく思はれる位なのもある。雜誌といへば如何に商賣物なりとはいへ、少しは現代女子の趣味てふ事をも念頭において拵へてもらひたいものだ。無暗と方々の大家の說を並べたり、才媛令孃の寫眞を掲げたりしては、たゞ讀者をして歸する處に迷はしめ、又虛榮心をあほる丈の功能しかあるまいと思ふ。現今の婦人雜誌の多くは確かに、現代の虛榮心に醉へる女子の反射鏡だと曰はれても仕方あるまい。

◎それは措おき茲には手近にある雜誌に短評を加へて見やう。まづ家庭ものには家庭週報、家庭の友、婦人の友などがある。皆他の婦人雜誌と異りて極く地味なものだ。家庭週報は女子大學内櫻楓會の發行だが、第一頁の論說は穩當の說が多く、筆の雫には淸新なる見も屢々見ゐるが、議論は餘り實かないやうだ。家庭の友には子供と新聞、金錢に就て種々なる人の說が出來て居る。新聞は家庭で別に禁じたり制限する要があるまい、又不要のとだ。それよりも新聞を如何に讀むべきかを訓練した方がよいといふ說は穩當と讀まれた。婦人の友は體裁前者と似たれど、是は内容が殆ど編輯者たる羽仁夫人一人の手になつたかの樣に讀まれる點が違ふ。他人の說を並べても編者の意見を附して居るのは親切だ。少し單調の傾はあるが、妻君の好伴侶であらふ。此等は現代の虛飾的雜誌とは遙に飛び離れた寧ろ健實のものである。他の方面は又號を逐て評することにしよう。（光子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

随感

安井哲

節操は婦人の命である。如何なる寶も之れに代ふる事は出來ぬ。之れを犧牲にして行つた事は、假令如何なる理由があつても皆悖德である。

日本の男子は戰爭に於て勇氣を顯はすが、日本の女子は平和の生活に於て勇氣を示さねばならぬ。一命を賭して國の名譽を全うせんとする男子と、一身を擲つても節操を保たんとする女子とは共に勇者である。

婦人をして貞操あらしめんには、男子も亦婦人の貞操を犯すべからざる者と考へねばならぬ。然るに一婦人が强盜に殺されたといへば、尚に忌まはしい臆測を下して、恰も貞操を破られたかの如く公然と新聞に掲ぐる者がある。何といふ道德的思想の低い人であらう。高尙な人格を有する者は、かゝる臆測をなす事すら耻づる者である。况んや婦人の神聖なる節操を、臆測によりて、而も不幸なる死後に傷けんとするは、寧其低き人格に不快を感せざるを得ぬのである。

平時は柔和なるべき女子も、萬一の時には嚴然として立つべき必要がある。併最も勝れたる者は、平時の柔和なる中に、一種の犯すべからざる威嚴を有する者である。犯されたる後に保護すべき方法を研究せんよりも、寧犯さるべき餘地のない様にすべきである。

金錢、寶玉、權威を以て婦人の愛を買はんとする人は、眞の紳士ではない。是等の誘惑によつて一時的の幸福を得やうとする婦人は、永久の不幸に苦しまねばならぬ者である。

○

相原生

▲至誠は生ける人格の根蒂である。一片の、誠が心中にあるとき、其人は宇宙の間に生き、宇宙の大靈を呼吸しつゝある。充實せる生活、勝利ある人生とは畢竟この至誠を以て進み、遂に之を體得する事である。赤裸々の至誠と化ることである。

▲渾身至誠を以て立つ人は、見るからに氣持のよいものである。况して自らが之を我が心中に認識し得るに於ては其の愉快如何許であらふか。是れ眞の安心立命の存する所である。古人は俯仰天地に耻ちないといふた、眞に大丈夫の精神である。

▲汝靈とまことゝを以て神を拜すべしと基督は敎へた。靈なる神は大なる至誠である。瑩々たる一片の至誠を以て祈る時に其處に感應がある。義人の篤き祈は力ありと古の聖者はいふた。至誠の籠つてる所は眞に人を奮ひたゝしめる力がある。

▲此の至誠を情觀したるもの即ち基督敎の愛である。滔々たる世上の愛とは違ふ。世の愛には利我主義が多い。故に利を見ては忽ちにして東、忽にして西水上に流る、浮萍の如しである。世の愛は虛榮心の愛もある。我は他人の爲に犧牲になつたといふ、是れ他の爲に非ずして、實は自分の爲である。斯る人は假令其の行が犧牲獻身的であつても何等の力がない。本物でないからだ。故にパウロは曰ふた。假令一切の所有を人に施して慈善家ぶり、又焚かるゝ爲に吾が身を與ふる

ども、若し其人にして心中至誠の愛を缺くならば、其行は何等の力がないと。眞の愛は力である。假令其の形は人目を惹かず、又他に默して居るも眞に人を動かす力がある。基督が此兄弟の最微者の一人に行へるは則ち我に行へし也といふたのも是れである。

▲人若し此の至誠を以て行く時、誘はれて之を穢す時あらんか、假令何人も識る能はざる自分の心中に於て此事が起つても、彼は自ら羞恥の念に堪へない、非常なる苦痛と良心の叱責とを感せざるをえぬ。是れ實にパウロの苦き經驗であつた。然共彼は茲に再猛然として起つことが能る。此の羞恥る念と呵責の存する限、彼は復起ち得るのである。斯くして彼は無限に進み、獨愼の靈性は斯して養せられるのである。

▲晴夜仰いで滿天の星を觀る時、一種謙遜の念にうたれざるとはない。天には燦然たる星斗、人には無上絶對の法とは大哲カントの墓碑に彫られた句である。噫かの瑩々たる光を放ちて、無邊際より無邊際に流轉する星斗に對し、吾も亦汝の行くが如く歩みつゝありとの自覺を抱きうるは何たる幸であらふ。

○　　　　　　　　　　横山　砂

▲日本人の宗教思想は甚だ幼稚であるといへど、神道や佛教儒教の感化を受けて、思想に統一がないやうであるが、一種神に憧がれ神を求むるの心は非常に心の底に燃ゐつゝあるのです。吾人は其一例として茲に最近に起れる一老婆の悔改を報告しませう。此老婆は年已に六十を超ね、家極めて貧しく學問とては假名より外讀むことが出來ぬ先無學の者です。然し家は代々日蓮宗で、其々の家も同宗旨であつた故に法華の剛情なる性質をば大に繼承して居ました。此老婆には二人の子がある。或機會によつて二人とも基督信徒となり、所謂基督教會派に屬し、母に時々傳道して同信徒たらんことを求めたが、老婆は決して應じませんで、數年を過ぎました。

▲然るに其一人の子は頻りに基督イエスの復活說や奇蹟を說いて、イエスの神なることを證し、基督に從はんことを求めたが、老婆は頑として之に應じなかつた。「汝の說くが如くならば基督教は信ずるに足りません。眞の基督教は必ず然る者ではなく、必ず別に大眞理があるだらう」とて、一日我が許に來り、基督教とは果してどんな者であるかを質問した。私は之に答へて、基督は悉く神の言なりと思ふは誤りである。處女說も奇蹟論も後人或は其當時の人がしか思ふて書いた者であらう。基督の教は神を愛し人を愛するの道で、他に奇異なる者があるのではない。但日蓮其他の高僧(釋迦も孔子も)等は皆眞理は斯くの如き者である故に斯く爲すべしと人間に指示した者で、云はば教師か學者である。基督はそうでない。我即ち神なりとて己の人格を以て神の面影を示し、且汝等も亦我と同じ人なれば神たるを得べしと說いたので吾人は基督自身に神を見ることを得るのであるといふた。

▲老婆は之を聞いて手を拍つて喜び、程なく信仰を告白して洗禮を受け、今は教會の敬虔なる信徒となつた。嚢の流れ行くを見て潮流の方向がわかる。吾等は是によりて少くも日本人の思想の程度が分るではあるまいか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彙報

●三井慈善病院の開院　豫て三井家より一百萬圓を寄附し、貧民施療の爲めに建設中なる同病院は此程落成し、三月廿二日より開院無料を以て貧困者の患者を收容したり、世の富豪者總て此擧に傚へ斯ゝる慈善事業に其貲を投せんことを望む

●久邇宮妃俔子殿下の御渡歐　同殿下には三月廿四日東京御出發御渡歐の途に就かせ給へり。

●バロー夫人の訃　三月廿日に擧行せられたる横濱市山手ユニオン敎會礎石式の主催者たる米國人ゼームスバロー夫人は同十七日に心臓麻痺のため突然逝去せり。同夫人は夫バロー氏と共に傳道師として日本に來り、十年一日の如く慈善事業に盡したる者なり。

●高等女學校の紛擾　宇都宮なる同女學校は此程來敎師と生徒の間に紛擾を生じ、生徒一同一時休校したり。事の眞相は兎も角も、姬御前の身にして同盟休校を爲すとは少しく穩かならぬ事なり。當局者の反省を望む。

●周宮内親王殿下の御婚儀　御姉宮殿下には竹田宮に御降嫁あらせられ、已に此程王殿下を御分娩あらせられたるが、妹宮殿下には竹田宮の御弟北白川宮成久王殿下と來五月に御成婚あらせらるゝ由承る。目出度事の限りにこそ。

●音樂學校卒業式　東京音樂學校にては去廿五日同校に於て卒業證書授與式を擧行し、式後音樂會を開催したり。本年度の卒業生は本科十六名、選科六名、甲種師範科十七名、乙種師範科十九名にして、俊秀の士女少からず。式後の音樂會に於て卒業生の合唱、ピヤノ、オルガン獨奏、ピヤノ、ヴアイオリン合奏等ありたり。

●女子音樂學校演奏　私立女子音樂學校にても去二十日同校生徒卒業式を神田美土代町青年會館に於て擧行し、同時に樂媛會音樂會をも催されたり。會員諸氏の二部及三部合唱ピヤノ、オルガン、ヴアイオリン、箏曲等の演奏ありて頗る盛んなりき。

●衣裳好み陳列會　京橋區西紺屋町なる高島屋呉服店にては三月廿日より廿二日迄同店内に於て衣裳好み陳列會を開き、汎く都人士の來觀を得て、衣裳好み投票を催し、當選者に景品を贈呈したり。

●加治木常樹翁上京　香川景樹八田知紀系の歌人にして「小戶の鏡干」の補選者なる同翁は郷里鹿兒島及び福岡等にて後進子弟に歌道を敎授し居たりしが、頃日上京して居を赤坂區仲の町二九番地にトしたり。敎を乞ふ者多き由。

●女子大學講義錄　同講義錄を日本女子大學校内の通信敎育會より發行し、四月より新學期を開始したり。時間と學資に乏しき女子には至極便利なるべし。

●戶板女學校のバザー　三月廿一日に同校内に開き、和洋服裝物、造花、摘物、飾物等を陳列して販賣せり。

●婦人矯風會の慈善音樂會　同會は三月廿日青年會館に於て開催頗る盛況なりし。

●東京婦人會講演會　同會にては來月十一日の日曜日午後一時より本郷壹岐殿本郷會堂に於て講演會を開く由。

編輯だより

▲昨年の初冬頃から早くも生れ出づべき豫告のあつた本誌は今や春陽三月の好時機を得て漸く呱々の聲を擧ぐるに至りました。主幹の發刊の辭の中にもある通り、元々姉妹たる雜誌の生れ出でんことは社中同人が多年希望する所でありましたが今や其機熟して玆に至つたことは讀者諸君と共に大に欣ぶ所であります。併し初號でもあり未だ體裁整はざる點もありますが、次號より益々精勵致します。

▲本誌が現代の婦人界に對する使命としてたつ所は、既に社說及び本誌を通覽せらるゝ方の直に御了解になる所と信じます。本誌が其標榜捧持する主義によりて實行せんとする所は種々あります。先づ次號よりは更に問答欄を開いて讀者諸君のために出來る丈の御便宜を圖りたいと思ひます。即ち

人事欄　では讀者諸君の一身上に關したこと、又は精神上の疑問に對し應答致します。

家政欄　では讀者諸君の家政上の御相談お相手になります。

育兒欄　では育兒上の困難や、無經驗のことについて出來る丈實驗上から御參考になるやう致します。

衞生欄　は家庭普通の病者に關して應答します。

右の諸欄では安井主筆を始め海老名、元良、松井、野口諸夫人及宇野金子等の諸學士擔當丁寧親切に應答されます。

▲問題のある方は明瞭に其事柄を書いて四月十日限久堅町八番地新人社事務所宛にて御送りを願ひます。

▲又本誌次號投書一切は四月十五日同事務所宛にて御發送を願ひます。但表に新女界原稿の五字を明記される樣望みます。

▲又次號には栗原文學士の彩筆に成れる世界婦人史譚、浮田博士、阿部磯雄氏等の寄稿をも載せるつもりです。

本誌定價（一部金拾錢（郵税ナシ）◎六ヶ月分前金五十●錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾●錢（郵税ナシ）

外國行定價（壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢　郵税ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廣告料

一頁	半頁	四分一頁	一行廿七字詰
十圓	金五圓	金三圓	金廿五錢
内表紙十二圓			
外表紙拾八圓			

●數回引續き御揭載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座に依らざる御送金は總て小石川區竹早町郵便局宛

●郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛に願上候

東京小石川區久堅町八番地

新人社事務所

（振替貯金口座一四〇〇五）

明治四十二年三月二十八日印刷
明治四十二年四月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區久堅町八番地　野口末彥
發行所　東京府下北豐島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

京都御染物

本檳榔子黒

江戸褄模様類

新柄小紋色々

東京小石川上富坂二一三
コーツ邸内

京屋　佐藤松治郎

御一報次第直ちに参上可仕候

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

カメリヤ洗粉
◎容貌の美醜は化粧法の
巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀
なる美貌は最新の化粧法により配
劑せられたる高等美身料カメリヤ
洗粉の常用によりて
顯はる本品の小量を
微温湯に溶解し洗面
を試みよ花香芬々と
して心身爽快を覺
ゆるのみならず顏
面潔白となりて艶
を生じ年若き花の
顏となるべし
定價
大壜 壹個 廿五錢
小壜 同 十五錢
大袋 同 五錢
小袋 同 三錢
鑵入 同 十三錢
本舖
東京神田 小林富次郎
發賣元 ライオン齒磨

讀書界の待望せし世界三聖傳出づ。人間に思想あり信仰あり文明ありてより以來最も偉大なりし三大人格三大教主基督釋迦孔子の全生涯を傳し且論じて著者各其全力を盡す

世界三聖傳

西脇玉峯編著

孔子

定價八拾錢送十二錢

孔子の一生を專門的に一貫的に最も新しく眞面目に研究せしもの從來僅に蟹江博士の『孔子研究』あるのみなりしが今や最も正確に多趣味に此の聖者の一生を叙述せし本書出づ甚だ喜ぶべし云々『報知新聞』

松本赳編著

基督

定價金壹圓送十二錢

著者は信仰の人心靈上修むる所淺からず潜心基督の生涯を研究し其結果を發表せるもの本書なり基督教文學の爲めに此の中正不偏なる良書出でたるを慶賀し世に推薦するに躊躇せざるなり『護教』

大屋德城編著

釋迦

定價金壹圓送十二錢

本書詳には『佛陀及び佛陀を中心とせる佛教文學の概觀』と稱し今略して『釋迦』と題す其目的とする所は佛陀の偉大なる人格思想を紹介すると共に佛陀を中心とする佛教文學の大觀を紹介するにあり

版元

東京巣鴨郵便區染井山縣邸內

內外出版協會

振替貯金口座第二百五十五番

營業項目

●諸會社定欵、簿記用箋類

●名刺、廣告、引札類

●寫眞版、木版、電氣版類

●醫家病院用印刷物及附屬品

●此他如何なる緻密の物にても迅速且鮮明に印刷仕候

●地方及び諸教會よりの注文は特別御便宜に取扱可申候

東京市本郷區弓町一ノ一

忠文堂印刷所

社告

本郷教壇 第四

四月廿日發行
定價一冊卅錢
郵稅四錢

目次

○英文 明治四十一年七月英國エヂンバラ市組合教會世界大會に於ける講演
○英文 同年十一月米國アメリカンボールド年會に於ける講演
○獨逸及歐大陸に於ける精神界の問題
○英國自治教會の使命
○米國精神界の大問題
○吾國精神界の將來

右は海老名牧師歐米漫遊の土産にして三月中旬發行之筈なりしも同師繁劇忙殺の爲め原稿校閲の暇なく已むを得ず發行延引する事となれり

社告

弊社雜誌は「新人」「新女界」とも前金にて御購讀願上度前金切の御方は申すに及ばず新に購讀せらるゝ諸賢は必ず前金御送附被下度候。なほ振替貯金口座によりて御送金の御方は手數料の二錢御忘れなく御加へ置被下度奉願候也

「新人」及び「新女界」大賣捌所

東京神田裏神保町	東京堂
東京神田駿河臺紅梅町	中庸堂
東京京橋尾張町	警醒社
東京京橋尾張町	東海堂
東京神田	勉强堂
東京本郷	日本堂
大阪市心齋橋筋南久太郎町	福音社
神戸市北長狹町通六丁目	福音舍
京都三條寺町	聖書房
岡山磨屋町	眞書院
仙臺市南通	勞働會
米國桑港	文明堂
韓國京城	日韓書房

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金、午前、松田醫學士診察火、土、
午前、窮者施診火、木、午前、入院診斷後隨時應需、
松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）

電話茅ヶ崎（二一番）

南湖院

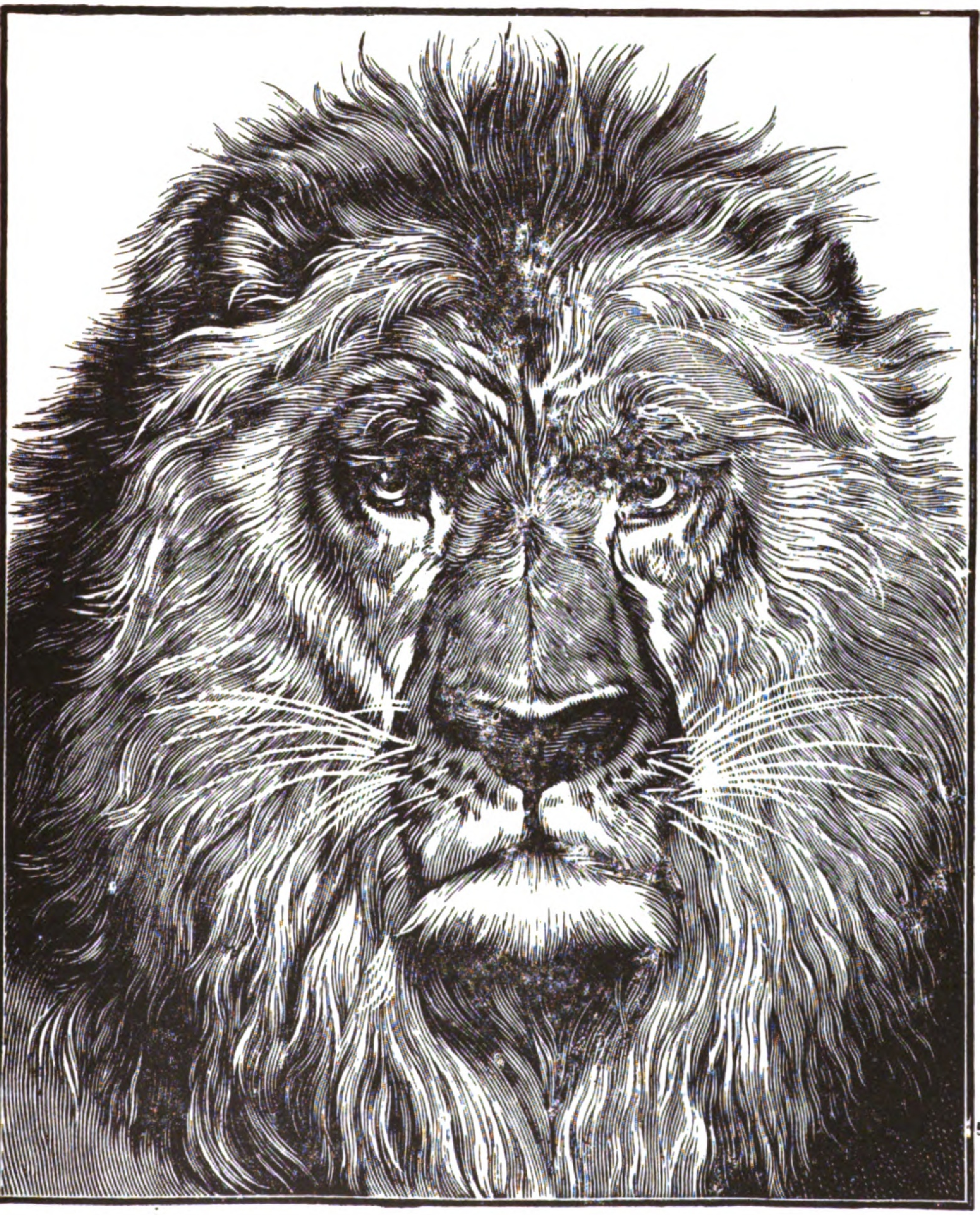
河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

ライオン歯磨



發賣元
東京市神田柳原川岸
小林富次郎

毎月一回一日發行

明治四十二年四月一日發行第壹卷第壹號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN